

【資料・研究ノート】

アラビア語エジプト方言の未完了形の用法

榮 谷 温 子

(アジア・アフリカ言語文化研究所)

Imperfect Form in Egyptian Colloquial Arabic

SAKAEDANI, Haruko

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

The purpose of this paper is to consider the meaning and usage of the imperfect form without a prefix in Egyptian Colloquial Arabic. Mainly based on examples found in an Egyptian play, *Kumidiya 'Udīb: w-inta (i)lli 'atalt il-waḥš*, this study compares the unmarked imperfect form with the *bi*-imperfect form and the active participle form, which are also deeply related to the present tense.

First, in contrast with the *bi*-imperfect form which expresses concrete actions and states, the unmarked imperfect forms like *yimūt*, *yimši*, *nirūh*, *tišrab*, basically shows irrealis. Several usages derive from this:

- (i) showing something universal and not dependent on time per se,
ex. *il- 'insān yimūt*. (Man should die.)
- (ii) denoting some abstract action/state,
ex. *bi-yimši* = he walks; *yimši* = it proceeds,
- (iii) used just like infinitives,
ex. *ša'ab nirūh hināk*. (It is difficult for us to go there.) and
- (iv) telling something uncertain, which relates to some modal usages and future tense.
ex. *tišrab 'ēh ?* (What would you like to drink?)

Second, the active participle form suggests that the result of a certain action remains until the present, that is, its expression is indirect. Thus it sometimes has a slightly vague or abstract meaning and its actuality is also lower than the *bi*-imperfect form. However, it never expresses non-actuality as the unmarked imperfect form does.

But this paper does not deal with conditional sentences. The perfect form and the *ḥa*-imperfect form are not explained enough, either. We must consider

Keywords: Arabic, Egyptian Dialect, Imperfect, Subjunctive, Active Participle

キーワード：アラビア語，エジプト方言，未完了形，接続法，能動分詞

about the verb *kān* 'to be' as it forms compound tenses together with other forms of the verbs, and the verb *ba'a* which seems to have an important function, too.

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 | はじめに | 3.3 | 「実現していないこと」からの派生的用法 |
| 2 | 先行研究 | 3.3.1 | 不確実性を表す用法 |
| 2.1 | 動詞の形式と各々の用法 | 3.3.2 | 具体性の少ない事柄を示す用法 |
| 2.2 | 動詞の分類 | 3.3.3 | 未来, そしてムードを表す用法 |
| 3 | 無標的未完了形, bi-未完了形, 能動分詞の用法の比較 | 3.3.4 | 無標的未完了形のいわゆる不定詞的用法 |
| 3.1 | 無標的未完了形と bi-未完了形のアクチュアル性 | 3.4 | 能動分詞との関わり |
| 3.2 | 時を示す従属節内の無標的未完了形 | 3.4.1 | 結果を表す能動分詞形 |
| 3.2.1 | 時を示す従属節内の完了形と未完了形 | 3.4.2 | 能動分詞形の婉曲性, そしてアクチュアル性の低さ |
| 3.2.2 | lamma 節内の完了形と未完了形 | 4 | おわりに |

1 はじめに

アラビア語エジプト方言には、動詞の形式として、完了形・未完了形・分詞形・命令形がある。さらに未完了形は、単独で用いられるだけでなく、*bi*¹⁾や*ha*-という接頭辞が付される場合がある。

本稿は、それらのうち無標の未完了形²⁾に焦点を絞り、それを特に接頭辞 *bi*-を伴う未完了形と能動分詞形と比較しつつ、現在時制と深く関わるそれらの共通点や相違点とともに、互いの関連性を明らかにしようとするものである。

一般的には、接頭辞 *bi*-を伴う未完了形が習慣や現在進行を、接頭辞 *ha*-を伴う未完了形が未来を示すのに対して、無標の未完了形の用法については接続法に準じた性質が指摘され、非時制的な用法やムード的用法などがあげられている。能動分詞形については、動詞の種類によって、現在進行、近未来、あるいは結果を示す用法などがある。

これらの形式を分析するにあたり、実際の用例を、*Kumidiya 'Udib: W-inta (I)lli 'Atalt il-Wahs*『喜劇エディプス：あなたが怪物を退治した人だ』の脚本から収集した。これを書いた 'Ali Sālim の知名度や、1970年に実際に上演されていることから、一般に受け入れられる自然な口語アラビ

1) 本稿で用いた転写方法等については Appendix を参照。なお、他の文献から例文等を引用する場合には、転写法を本稿のものに変更して表記する。

2) 本稿では、形式上、接頭辞をともしない未完了形を一律に「無標的な未完了形」としてまとめて扱ったが、査読委員より、標識の全くつかない未完了形と、ゼロをともしない未完了形とを区別すべきではないかとのコメントをいただいた。例えば、後述する *mumkin* (can), 'āyiz (want to) などムードを示す語のあとにくる未完了形は、決して他の接頭辞をとることができず、これはゼロを伴った未完了形と考えられるが、他方、一般的事実を表す用例などでは、接頭辞を伴った形も容認される場合があり、こちらは狭義の無標的未完了形である。しかし、本稿では、双方をまとめて *bi*-を伴う未完了形や能動分詞と対比させ、ゼロ接頭辞と狭義の無標とを区別せずに、見かけ上、接頭辞を伴っていない未完了形全体を統一的に記述してみた。

ア語で書かれている³⁾と判断される。

2 先行研究

2.1 動詞の形式と各々の用法

まず、アラビア語エジプト方言における動詞の形式を、*katab* (書く) の3人称男性単数形(ただし命令形は2人称男性単数形。また分詞形には人称の区別がない)を例に、整理しておく。

<i>katab</i> (書いた)	完了形
<i>yiktib</i> (書くべきだ, 等)	無標の未完了形
<i>bi-yiktib</i> (書く, 書いている)	<i>bi-</i> の付いた未完了形
<i>ha-yiktib</i> (書くだらう)	<i>ha-</i> の付いた未完了形
<i>kātib</i> (書いてしまった, 或いは 書記, 作家)	能動分詞形
<i>maktūb</i> (書かれた)	受動分詞形
<i>iktib</i> (書け)	命令形

以上のうち、本稿で扱う *bi-* の付いた未完了形、無標の未完了形、能動分詞形の意味・用法については、従来おおよそ次のように説明されてきた (Ahmed, 1981; Eisele 1999; Salib 1981; Al-Tonsi et al 1986a, 1986b; El-Tonsi 1982)。

[1] *bi-* の付いた未完了形

(a) 進行中の行為を表す。

例文 1) *Hasan bi- yil'ab tinis dilwa'ti.*
 ハサン プレイする 3男単・未完 テニス 今

ハサンは今テニスをしている。(Salib 1981, p.63)

(b) 反復的に、あるいは周期的に、あるいは習慣的に起こる行為。乃至、職業として通常行われる行為。

例文 2) *Hasan bi- yil'ab tinis kulli yōm.*
 ハサン プレイする 3男単・未完 テニス 毎 日

ハサンは毎日テニスをしている。(ibid.)

例文 3) *Aḥmad bi- yištayal šuhafi.*
 アフマド 働く 3男単・未完 記者

アフマドは記者として働いている。(ibid.)

3) 演説の場面などで、正則アラビア語が用いられている場面もあるが、本稿で扱うのは口語の部分のみである。

(c) 永続的あるいは一般的な事実。

例文4) *Nabil bi- yi'raf Layla kuwayyis.*

ナビール 知る 3男単・未完 ライラ 良く

ナビールはライラを良く知っている。(ibid.)

[2] 無標の未完了形

(a) 主節の主動詞として用いられる場合：

i. テンス的用法：

A. 直前の動詞と同じ時制をあらわす。動詞の未完了形が連続した場合に、接頭辞の *bi-* や *ḥa-* が2番日以降の動詞で省かれたもの。

B. 一般的事実 (Eisele 1999の言う「不特定な現在」) を表す。

例文5) *yiktib gawāb l- abū -h kulli yōm.*

書く 3男単・未完 手紙 ~に 父 -3男単 毎日

彼は自分の父に毎日手紙を書いている。(Eisele 1999, p.82)

例文6) *dayman yiṣḥa badri.*

いつも 目覚める 3男単・未完 早く

彼はいつも早起きする。(Al-Tonsi et al 1986a, p.187) ⁴⁾

ii. ムード的用法：欲求, 可能, 依頼, 示唆, 間接的な命令, 誓い, 祈願などを表す。

例文7) *tiṣrab 'eh?*

飲む 2男単・未完 何?

何をお飲みになりますか? (What would you like to drink?) (Al-Tonsi et al 1986a, p.171)

例文8) *'agi 'imta?*

来る 1単・未完 いつ?

私はいつ来るべきでしょうか? (ibid.)

例文9) *'Allāh yixallī -k.*

アッラー 保つ 3男単・未完 -2男単

アッラーがあなたを守られますように。(Eisele 1999, p.86)

iii. なお, これに準じた用法として, *kān* (was, were) と共に用いて複合過去形を作り, 過去の習慣 (上記のテンス的用法から来る) や過去の義務 (同じくムード的用法から来る) を示す用法が挙げられる。(Eisele 1999, p.86)

(b) 従属節で用いられる場合：

i. アスペクトやムードを示す主節に従属する場合：

例文10) *lāzim tirgā' bi- sur'a.*

必須である 帰る 2男単・未完 ~で 速度

あなたが速く帰ることが必須である

=あなたは急いで帰らなければならない。(Al-Tonsi et al 1986a, p.178)

4) *dayman* (いつも) が動詞よりあとに来た場合には, *bi-yiṣḥa badri dayman.* のように, 動詞に接頭辞 *bi-* が付く。(Al-Tonsi et al 1986a, p.187)

例文11) *'awzīm nišūf il- film da.*

欲する 能分・男複 見る 1複・未完 (限定辞) 映画 この

私たちがこの映画を観ることを、欲する

= 私たちはこの映画が観たい。(Al-Tonsi et al 1986a, p.179)

例文12) *'ēh rāy -ak nisma' musiqa ?*

何? 意見 -2男単 聞く 1複・未完 音楽

私たちが音楽を聞くことについての、あなたの意見は何ですか?

= 音楽を聴きませんか? (Al-Tonsi et al 1986a, p.187)

- ii. 時を示す接続詞 (*lamma* “～するとき”, *'abli ma* “～する前”, *ba'di ma* “～した後”, *li-γāyit ma* “～するまで”, *li-haddi ma* “～するまで”, *wa'ti ma* “～するとき”, *'awwal ma* “～するやいなや”) に導かれた従属節で用いられる場合。Al-Tonsi et al (1986a, p.188) ではこれを「未来形 (接頭辞 *ha-*を伴う未完了形) の代わりに用いられている」と説明している):

例文13) *'abli ma ūgi l- faṣl, lāzīm ti'ra d- dars.*

～する前に 来る 2男単・未完 (限定辞) クラス 必須である 読む 2男単・未完 (限定辞) 課

授業に来る前に、あなたはレッスンを読んでおかねばならない。(Al-Tonsi et al 1986a, p.187)

例文14) *'awwal ma yitxarrag ḥa- ysāfir.*

～するや否や 卒業する 3男単・未完 旅する 3男単・未完

彼は卒業したらすぐに旅に出ることだろう。(Al-Tonsi et al 1986a, p.188)

- iii. 目的や理由を表す場合:

例文15) *ruḥna nšūf -u.*

行く 1複・完了 見る 1複・未完 -3男単

私たちは彼に会いに行った。(Eisele 1999, p.88)

例文16) *lāzīm tišrab id- dawa 'ašān tib'a kuwayyis.*

必須である 飲む 2男単・未完 (限定辞) 薬 ~ために なる 2男単・未完 良い

あなたが回復するために、あなたは薬を飲まなければならない。(Al-Tonsi et al 1986a, p.187)

- iv. その他 (アスペクト的でもムード的でもない用法, いわゆる不定詞的な用法):

例文17) *ša'bi nrūḥ hināk.*

難しい 行く 1複・未完 そこ

私たちがそこへ行くことは難しい。(Eisele 1999, p.88)

例文18) *xaragit min γēr ma tiḥtar.*

出かける 3女単・完了 ~することなしに 朝食を摂る 3女単・未完

彼女は朝食を食べずに出かけた。(Al-Tonsi et al 1986a, p.188) ⁵⁾

なお, Eisele (1999, p.89) は, 無標の未完了形の特徴として「絶対に, 特定の時間の指示 (specific time reference) とは共起しない」ことを指摘している。もちろんテンシ的用法で挙げた, 接頭辞の *bi-*や*ḥa-*が2番目以降の動詞で省かれた場合は, 無標の未完了形というより, 実質的には接頭辞の *bi-*や*ḥa-*を伴った未完了形であるから除かれる。

5) 類例として, *badal ma* “～するかわりに” が挙げられる。(Al-Tonsi et al 1986a, p.188)

[3] 能動分詞形

- (a) ある行為の完了を示す。

nām (寝る) の能動分詞 *nāyim* が、「眠りに落ちてしまった」の意味になったり、*kal* (食べる) の能動分詞 *wākil* が「食べてしまった、その結果まだおなか一杯である」の意味になる、等。(Al-Tonsi et al 1986b, p.90, p.107)

- (b) 起動動詞 (Inceptive Verbs) の能動分詞は、その動作の結果継続を表す。

libis (着る) の能動分詞 *lābis* は、「着ている」という意味 (着つつあるのではなく、着終わって身につけている状態) である。(Al-Tonsi et al 1986b, pp.90-91)

- (c) 移動を表す動詞の能動分詞は、未来形 (
- ha-*
- を伴う未完了形) よりも確実な未来を表す。

例えば、*sāfir* (旅する) の能動分詞 *misāfir* は「(今、あるいは後で) 旅に出るところだ」という意味になる。(Al-Tonsi et al 1986b, p.90)

- (d) 移動を表す動詞以外でも、計画されたことや、規則的に繰り返される行為や出来事を述べる場合には、能動分詞が未来を表すことがある。

例文19) *kulli l- mahallāt 'afla ba'di bukra 'ašān il- 'id.*
全て (限定辞) 店 複 閉まる 能分・女単 あさって ~のため (限定辞) 祭日

明後日は祭日のため、全ての店が閉店する。(Al-Tonsi et al 1986b, p.114)

- (e) 状態や知覚を表す動詞の能動分詞は、習慣ではなく、現在進行している状態を表す。

例えば、*fihim* (理解する) の能動分詞 *fāhim* は「今、理解している」という意味であるが、これに対して *bi-*の付いた未完了形は：

例文20) *'ana b- afham bi- sur'a.*
1単 <bi- 理解する 1単・未完 ~で 速度

私は (普通, 通常) すばやく理解する。

のように、習慣相を表す。(Al-Tonsi et al 1986b, p.100)

- (f) ただし、特に感嘆文などでは、ある行為が繰り返され習慣的になっているさまを、能動分詞で表現することもある。

例文21) *miš ma'ūl kida kulli yōm rāgi' nuṣṣ il- lēl!*
(否定) 道理にかなう このような 毎 日 帰る 能分・男単 半ば (限定辞) 夜

毎日こんなふうに深夜に帰ってくるなんて、むちゃくちゃだ。(Al-Tonsi et al 1986b, p.115)

2.2 動詞の分類

Woidich (1975) は、Al-Tonsi et al (1986b, pp.90-91) や El-Tonsi (1982, pp.33-46) で「起動動詞」とされた動詞⁶⁾の能動分詞について、それらの表すところは進行相ではなく、「その他全ての動詞」の能動分詞と同じく結果を表すと考えた。例えば *rikib* (乗る) の能動分詞 *rākib* は、過去に何かに「乗った」結果として、現在まで「乗っている」という状態が継続しているという解釈である。

そのうえで Woidich (1975) は、アラビア語エジプト方言の動詞を、

[A類] 能動分詞が結果を表す。

6) ただし例えば、El-Tonsi が起動動詞に分類した *nām* (眠る) が状態を表す動詞に分類されているなどの相違点はある。

[B類] 移動, 状態, 知覚, 心身の現実 ('irif “知る”, 'az* “欲する”) を示す動詞で, 能動分詞が現在進行を表す。

*実際には「欲する」の完了形は用いられず, 「欲した」と言う場合には, *kān* (to be) の完了形と能動分詞を組み合わせて *kān 'āyiz* の形が用いられる。

の2種類に分類した。さらにB類の動詞では, *bi*-未完了形は「今～している」という現在時制を表すことができず, 例えば *bi-yrūh* 「(いつも) 行っている」, *bi-yi'raf* 「(恒常的に) 知っている」のように, 習慣や一般論を表す。

A類の動詞に典型的に見られるように, 能動分詞が基本的に結果相を表すことは, Woidich (1975) だけではなく, Wild (1964), Eisele (1990), Eisele (1999) などでも指摘されている。

ただ, Eisele (1999, p.21) は Woidich (1975) の分類について, まず, *rikib* (乗る, 上る) の能動分詞 *rākib* や *libis* (着る) の能動分詞 *lābis* は, 第1次的には現在の状態を表すと説明される方がふさわしく感じられ, これらの動詞とA類に分類された他の動詞との区別が必要であると述べている。にもかかわらず, Woidich (1975) がその区別をしなかったのは, A類の動詞について, *bi*-未完了形の吟味を怠ったためであると指摘する。

さらに Eisele (1999, p.21) の考えでは, Woidich (1975) の指摘したA類とB類の違いは, それぞれに属する動詞の語彙アスペクトの違いによるもので, B類の動詞の意味するところは, 一点的 (punctual) あるいは起動的 (ingressive) であるので, 現在を指示できない⁷⁾。そのため, それらの能動分詞は, A類のそれと同じく, やはり結果を表す。すべての能動分詞は「結果としての状態の未完了的アスペクト」として機能すると言える。

他方, 起動動詞を除くA類の動詞は, *bi*-未完了形によって習慣・一般論とともに, *bi-yiktib* 「今書いている」 <*katab* (書く), *bi-yitkallim* 「今話している」 <*itkallim* (話す) などの現在時制をも表せる。

これに対して El-Tonsi (1982, pp.33-46) は, *bi*-の付いた未完了形と能動分詞の意味双方に着目して, 動詞を分類した。次の表は, 彼の分類を要約したものである:

動詞の種類	例	<i>bi</i> -未完了形の意味	能動分詞形の意味
状態, 態度, 知覚を表す動詞	'irif (知る) fihim (わかる) simi' (聞こえる)	習慣, 一般的叙述	現在の状態 (現在時制)
移動動詞	xarag (出る) miši (歩く, 去る) rāh (行く)	習慣	進行, 継続, <i>ha</i> -未完了形より確実な未来
起動動詞	rikib (乗る, 上る) libis (着る) nām (眠る)	習慣	進行, 継続
その他全ての動詞	kal (食べる) γasal (洗う) 'ara (読む)	進行, 習慣	過去の出来事, 動作の結果たる現在の状況 ※否定辞 <i>mis</i> で否定された場合は未来の否定となる。

7) なお, 一点的 (punctual) あるいは起動的 (ingressive) な動詞が現在を指示できない点についての Eisele (1999, pp.23-24) の説明は以下のとおりである。すなわち, 現在は “ego” と “now” という心理的な基準で定義される。つまり心理的な現在は「私」の意識する「今」であるので, 現在の「私」は, ついさっきまでの「私」とこの直後の「私」の連続の中で捉えられており, 物理的な現在のよ様な瞬間や点としては捉えられない。「私」の意識する心理的現在は点ではなく, 時間的な幅を持つ。

「その他全ての動詞」の能動分詞形の意味として述べられている「過去の出来事、動作の結果たる現在の状況」とは、例えば上述のように、*kal* (食べる) の能動分詞 *wakil* が、食べてしまった、その結果まだおなかが一杯である、或いは今は何も食べたくない、という意味合いを持つなどのように、結果が現在に及んで何らかの状態が継続しているさまである。

しかし、Eisele (1999, p.22) が述べているように、いずれにせよ、語彙アスペクトをもとに、動詞を分類していることにはかわりはない。Brustad (2000, pp.165-166) は、語彙アスペクトは、形式アスペクトと異なり、一時的か持続的か、限界の有無、静的か動的かなど、個々の動詞における固有の意味的な要素を指すもので、未完了態や分詞の文脈的な意味の解釈は、動詞の語彙的な素性による場合もあるとは言え、「語彙アスペクトそのものは、統語論的カテゴリーとはならない (p.166)」と述べている。

アスペクトという、言語形式が意味するものを考察の対象としている以上、論を進める上で、それぞれの動詞の語彙アスペクトを完全に排除することはできないだろう。だからといって、それを基準にして動詞を分類するのみで事足りるとするのは不十分である。

3 無標的未完了形, bi-未完了形, 能動分詞の用法の比較

本節では、未完了形や能動分詞の実際の用例を踏まえて、それらの用法や意味の共通点や相違点を明らかにする。最初に、無標的未完了形を *bi*-未完了形との比較を通して、無標的未完了形の特徴を明らかにし、次に能動分詞の用法との比較あわせて、現在時制と関わりの深いこれらの形式の相互関係や相違点を検討する。

3.1 無標的未完了形と *bi*-未完了形のアクチュアル性

先行研究によれば、上述のように、*bi*-未完了形の用法は、進行中の行為、あるいは反復的・周期的・習慣的な行為、永続的・一般的事実を表すのに対し、無標的未完了形は、主節の主動詞として用いられた場合、一般的事実や欲求・可能・依頼その他のムードを表すのであった。

まず、両者のアクチュアル性の差に着目したい。アクチュアル性とは、工藤 (1995) の表現である。工藤 (1995, p.26) は、以下のような対応が示され、「アクチュアル」を、時間的に個別的具体的であることとし、脱時間的なポテンシャルと対比させている。

広義モダリティ	アクチュアル	————	アクチュアル・ポテンシャル	————	ポテンシャル
時間的限定性	個別具体的	————	抽象的	————	一般的(脱時間)

これを踏まえて、両者のアクチュアル性について見てみると、*bi*-未完了形の方が、無標的未完了形よりアクチュアル性の高い表現となる。例えば、無標的未完了形の例を挙げると：

例文22) *'eh iš- šē' illi yimši -š- šubh 'ala 'arba'a wi -d- duhr*
 何 (限定辞) もの 関代 歩く 3男単・未完 (限定辞) 朝 ~の上 4 そして (限定辞) 昼
'ala tnēn... wi -l- maṛ rib 'ala talāta..
 ~の上 2 そして (限定辞) 日没 ~の上 3

朝は4本足、昼は2本足、夕方は3本足で歩くものは何? (Salim, p.81)

この *yimṣi* (歩く 3 男単・未完) は、今現在、トコトコと歩いているという意味ではなく、そのものの非常に一般的な性質としての「歩く」である。

例文23) *fir'ōn yimūt, yinti'il li -l- 'ālam il- 'āxar. yuḥkum hināk..*
ファラオ 死ぬ 3 男単・未完 移る 3 男単・未完 ~に (限定辞) 世界 (限定辞) 別の 統治する 3 男単・未完 そこ
 ファラオは死に、別の世界に移り、そこで統治するのだ。(Sālim, p.99)

ここでは、ファラオは人間なのだから死ぬ運命にある、という意味合いで、*yimūt* (死ぬ 3 男単・未完)、*yinti'il* (移る 3 男単・未完)、*yuḥkum* (統治する 3 男単・未完) という無標的未完了形が用いられている。

これに対し、「死ぬ」を *bi*-未完了形で用いると、以下のように「誰かが今、死につつある」という現在進行中の事柄を示すことになる：

例文24) *Haruku bi- tmūt.*
ハルコ 死ぬ 3 単女・未完
 ハルコが死につつある。⁸⁾

「人間は死ぬものだ」という一般的・超時的な事実が無標的未完了形で表され、「特定の人間が今死につつある」という具体的な事実が *bi*-未完了形で表されている。他方、次の *bi*-未完了形の例のように、特定の人が死につつあるというほどには具体的ではないが、「人間誰でも必ずいつかは死ぬものだ」という一般論ではない、両者の中間的な、反復的あるいは習慣的な事実を述べる場合もある：

例文25) *in- nās kitīr bi- ymūtu fī Falasṭīn.*
(限定辞) 人々 たくさん 死ぬ 3 複・未完 ~で パレスチナ
 パレスチナで人々が沢山死んでいる。

また前節で述べたように「一点的」または「起動的」な動詞は現在の一点を指示できない (Eisele 1999, pp.21-24) ので、その *bi*-未完了形は、「今~している、しつつある」という現在の具体的な事象ではなく、「いつも~している、~である」という習慣相、あるいは一般的叙述を表すことになる。

しかし、どこからが反復的・習慣的な行為なのか、どの程度の繰り返しがあれば習慣といえるのかは時に不明瞭である。例えば、演説に野次を飛ばしたあとのテレジアスの台詞：

例文26) *'inta 'arīf 'im -ni b- aštīm marra waḥda kulli mīt sana..*
2 男単・主格 知る 能分・男単 ~こと 1 単・斜格 ののしる 1 単・未完 回 1 女単 毎~ 百年
 お前も知ってのとおり、わしは百年に一度、罵るのじゃ。(Sālim, p.93)

あとでテレジアスがとても長生きであることが述べられる (例文31参照) ものの、百年に一

8) 作例。今後、特に出典の断りのないものはすべて作例 (筆者が作ってインフォーマントに了解されたものや、インフォーマントが挙げた文) である。

度の出来事は、通常の寿命であれば一生に一度あるかないかのことで、とても反復できるものではないし、恐らくテレジ阿斯自身も、生涯でただ一度の怒り、すなわちそれだけ激しい怒りであるという意味を込めて言った言葉であろうが、形式上は、百年毎に一回の反復的行為として述べられている。

さらに、先行研究でも、無標的未完了形と *bi*-未完了形の双方が一般的な事実を表すことが述べられていたが、これは両者の境界の曖昧さを示している。例えば、次のような例では、*bi*-未完了形を無標的未完了形に変えても、意味の違いはほとんど出て来ない：

例文27) *il- ṣahh bi- yib'a ṣahh li'ann -u ṣahh.*

(限定辞) 事実 なる 3単男・未完 事実 何故なら 3単男・斜格 事実

事実、それが事実であるから事実となり、

il- ḥa'ī'a bi- tib'a ḥa'ī'a li'anna -ha ḥa'ī'a.

(限定辞) 真実 なる 3単女・未完 真実 何故なら 3単女・斜格 真実

真実は、それが真実であるから真実となるのです。

law kulli ṣa'b Ṭiba wi'if w- 'āl in-nīl miš mawgūd.. yib'a

もし 全ての 人民 テーベ 立つ 3複・完 そして 言う 3複・完 ナイル (否定辞) 在る 男単 なる 3単男・未完

miš mawgūd ?

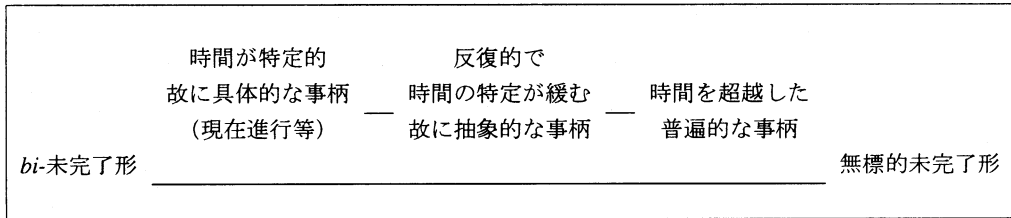
(否定辞) 在る 男単

もしテーベの全ての民が立ち上がり「ナイルはない」と叫んだとて、それ(ナイル)がなくなったりするのでしょうか？ (Sālim, p.48)

ナイル川があるという事実が「ナイルは無い」という虚言に負けることがないように、私たちの生きる世界では常に「事実は事実となり」「真実は真実となる」ことが繰り返されていると考えれば、アクチュアルな現実を示す *bi*-未完了形が使われるのも肯けるが、「事実は事実となり」「真実は真実となる」ことを普遍的な真理と考えれば、非アクチュアルな抽象的な事柄を述べる無標的未完了形に置換えることも自然となる。これはアクチュアルな事柄の無数の反復であり、時間に無関係な非アクチュアルの状態に限りなく近い、アクチュアル・非アクチュアルの境界線にある例と言える⁹⁾。そのため、*bi*-未完了形を無標的未完了形に変えても、意味の違いがはっきり出て来ない。

9) ただし、工藤(1995, p.26, p.149)は、日本語の「スル」形の動詞について、時間的な限定性という点から〈具体的〉1回性・〈抽象的〉反復性・〈一般的(超時)〉特性という3段階を設定し、これら、特に「〈反復性〉と〈特性〉は連続的である」(p.150)としながらも「が、基本的には量(複数次性)から質規定への飛躍を起す」(p.150)「経験の記述性から規定性(経験の一般化)への飛躍が起こる」(p.27)とも述べている。

このように、*bi-*未完了形と無標的未完了形は、分裂した範疇ではなく、下図のように連続的である。



3.2 時を示す従属節内の無標的未完了形

3.2.1 時を示す従属節内の完了形と未完了形

次に、時を示す接続詞 (*lamma* “～するとき”, *'abli ma* “～する前” など, 前節2.1の [2] 無標的未完了形 (b) 従属節で用いられる場合の ii. 参照) に導かれた従属節内で用いられる無標的未完了形を見てみよう。上述のように, Al-Tonsi et al (1986a, p.188) ではこれを「未来形 (接頭辞 *ha-*を伴う未完了形) の代わりに用いられている」と説明しているが, これは必ずしも正しくない¹⁰⁾。もちろん, 主節の動詞そのものが未来時制 (*ha-*未完了形) である場合は, 未来に起こるであろうことを示す。例えば,

例文28) *lamma (a)mūt 'ana ha- ti'milu 'eh..?*
 ~とき 死ぬ 1単・未完 私 する 2複・未完 何
 私が死んだら, お前達はどうするつもりだ? (Sālim, p.98)

例文29) *lamma tit'addim šuwayya ha- tifham.. wi- ha- ti'awwid..*
 ~とき 進歩する 2男単・未完 少々 (未来) 理解する 2男単・未完 そして (未来) 慣れる 2男単・未完
 お前もちょっと進歩すれば, わかるだろうし, 慣れるだろうよ。 (Sālim, p.69)

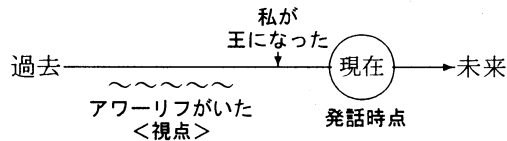
などである。(ただし後述するように, これも単純に未来形の代用であるとは言えないだろう。) 未来形のかわりという説明が妥当でないのは, 次のような場合である。エディプス王が, 警察署長のアワーリフが人々を拷問していることをレジマスから知らされ, 「そんなこととは知らなかった」と言い訳する場面の台詞で:

例文30) *'Awāliḥ kān mawgūd 'abli 'ana ma (a) b'a malik.*
 アワーリフ ~である 3男単・完了 見出される=“居る”男単・受分 ~の前 1単・主格 ~こと なる 1単・未完 王
 私が王になる前に, アワーリフは居たのだよ。 (Sālim, p.106)

この台詞を口にしているとき, エディプスはすでに王位に就いているのだから, 「王になる」

10) これに関連して, 査読委員から次のような説もあるとのご指摘をいただいた。*lamma* < *la + ma* (not yet) で, 正則アラビア語の *lam* (未完了形希求法を伴って, 完了の否定を表す) に準ずるものと考え, さらに, *lam* が未完了形希求法という, *sa-* (正則アラビア語で未来を表す接頭辞)などを付けることのできない未完了形とのみ結びつくことからの類推によって, *lamma* に後続する未完了形も, 接頭辞をとることができない, という説である。

ということは既に過去の時点で実現しており、未来ではあり得ない。過去に「アワーリフが居た」時点では、まだ実現していなかったということで、この 'abli ma (～する前に) の節内の無標的未完了形は、それが実現する前に、何かの事象が起きたということを示しているのであって、決して発話時点から見た未来を示すのではない。言いかえれば、現実の世界においては発話時点から見て過去に実現してしまったことでも、語られている事象が起きた時点の世界でまだ実現されていなければ、無標的未完了形が用いられ得るのである。



同じような例として：

例文31) *šaxš 2: 'abū -ya 'āl l -i*
 人 父 1単・斜格 言う 3男単・完了 ～に 1単・斜格
 人物2：私の父が、私に言った。

'inn -u kān mawgūd 'abli ma yitwilid..
 ～と 3男単・斜格 ～である 3男単・完了 見出される="居る" 男単・受分 ～する前に 生まれる 3男単・未完
 彼(=テレジアス)は彼(=私の父)が生まれる前に既にいたのだと。

šaxš 3: giddi giddi gidd -i, simi' min giddi giddi gidd -u..
 人 祖父 祖父 祖父 1単・斜格 聞く 3男単・完了 ～から 祖父 祖父 祖父 3男単・斜格
 人物3：私のひいひい爺さんが、そのひいひい爺さんから聞いた。

'inn -u kān mawgūd 'abli ma yitwilid..
 ～と 3男単・斜格 ～である 3男単・完了 見出される="居る" 男単・受分 ～する前に 生まれる 3男単・未完
 彼は彼(=ひいひい爺さんのひいひい爺さん)が生まれる前に既にいたのだと。(Sālim, p.55)

が挙げられる。

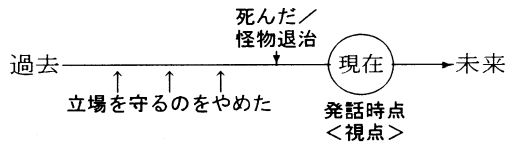
これらの例から、事象の起きた時点で視点を据えると、それより後に起こる出来事は無標的未完了形で示されることがわかる。

ただし、次のような例もある：

例文32) *lēh fih nās kūtīr ma- wi'fit -š fi makan -ha li-ḥaddi ma*
 何故 いる 人々 沢山 (否定) 立つ 3女単・完了 (否定) ～に 場所 3女単・斜格 ～まで
mātīt 'aw li-ḥaddi ma 'aḏēna 'a -l- waḥš..
 死ぬ 3女単・完了 あるいは ～まで やっつける 1複・完了 (前置詞) (限定辞) 怪物

何故、自分が死んだときまで、あるいは私たちが怪物を退治したときまで、自分の立場を守らなかった人々がたくさんいるのでしょうか。(Sālim, p.104)

怪物の退治は既に終わっているが、時間的な前後関係としては、従属節内の出来事（自分が死ぬ、あるいは怪物が退治される）が実現する方が、自分の立場を守ることをやめるのよりも後に来る。しかしこの場合は、前の例と異なり、従属節内でも完了形が使われている。主節と従属節との時間的な前後関係は、例文30)、31)の場合と同様なのである。



この場合は、先程の例と異なり、視点を発話時点に置いて、「人々が死ぬ」「我々が怪物退治をする」ということと、「人々が立場を守らなかった」ということとを共に過去のこととして語っていると言える。

3.2.2 lamma 節内の完了形と未完了形

ここで *lamma* の例にしぼって見てみると、下表のように、*Sālim* で *lamma* 節内で無標的未完了形が用いられていたのは14例であったのに対し、完了形の例と *bi*-未完了形の例はそれぞれ2つずつであった。ただし、1例、無標的未完了形の用いられている *lamma* 節が、さらに別の従属節内に存在する例があった (*Sālim*, p.47) のだが、これは後述する不定詞的用法に関わってくるので、問題を煩雑にしないために本節では扱わない。なお、*ha*-未完了形の例は見られなかった。

表 *Sālim* における *lamma* の用例 (節内の動詞の形式による分類) :

<i>lamma</i> 節内の動詞	無標的未完了形					完了形	<i>bi</i> -未完了形	<i>ha</i> -未完了形
例文の数	14					2	2	0
主節内の動詞	無標的未完	<i>ha</i> -未完	否定命令	<i>bi</i> -未完	不定詞的	完了形	<i>bi</i> -未完	無標的未完
例文の数	6	4	2	1	1 (考察外)	2	1	1

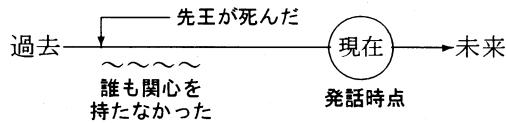
まず、完了形の例：

例文33) *wi- lžālik lamma māt ma'tūl ma- ḥaddi -š ihtamm*
 そして だから ~とき 死ぬ 3男単・完了 殺される 男単・受分 (否定) 一人 (否定) 関心を持つ 3男単・完了
'inn -u yi'raf mīm illi 'atal -u.. miš kida ya rayīs
 ~こと 3男単・斜格 知る 3男単・未完 誰 関代 殺す 3男単・完了 3男単・斜格 ~ない そのような ~よ 長
iš- šurṭa ?
 (限定辞) 警察

そして、だから、彼 (=先王) が殺されて死んだとき、誰が彼を殺したのか知ることに関心を持った者は誰もいなかった。そうであろう、警察署長よ？ (*Sālim*, p.55)

ここでは、上の例と同じく、発話時点に視点を置いたとも考えられる。さらに、仮に誰が彼を殺したのかに関心を持たないという、主節で表された過去の時点に視点を置いたとしても、

従属節で表された、彼が殺されたという出来事は、同時あるいは既に起こったあとであり、主節よりもさらに過去のこととなっている。この従属節を無標的未完了形に書きかえることはできない。



完了形が使われている、もうひとつの例は：

例文34) *al-'ahāli: ..'inta lli 'atalt il- wahš..*
 人々 2男単・主格 関代 殺す 2男単・完了 (限定辞) 怪物

人々：…あなたが怪物を退治した人だ…。

'Udīb: 'intu(m) lli 'ultu(m) kida.. 'ana lamma gēt ma-
 エディプス 2複・主格 関代 言う 2複・完了 そのように 1単・主格 ~とき 来る 1単・完了 (否定)
 'ulti -š kida..
 言う 1単・完了 (否定) そのように

エディプス：そう言ったのはあなたたちだ。私は帰ってきたとき、そうは言わなかった。
 (Sālim, p.112)

この例でも、例文33)と主節と従属節の時間的關係は同じであり、やはり従属節は無完了形と取り替えることができない。

これら2例は、特定の時を指示して具体的な出来事を示す文だが、*lamma* 節に無標的未完了形が使われている13例(本節で扱わない1例は除く)のうち、4例は主節に*ḥa-*未完了形が用いられて、未来のやはり特定の時についての具体的な表現であった。また2例は、*lamma* 節に無標的未完了形で、主節は禁止命令となっていた：

例文35) *ma- titkallim -š 'illā lamma (a)'ul l- ak.*
 (否定辞) 話す 2男単・未完 (否定辞) ~以外 ~とき 言う 1単・未完 ~に 2男単・斜格

私があなたに(喋っても良いと)言うときでなければ、喋るな。(Sālim, p.91)

例文36) *ma- ḥaddi -š yi'ul ḥāga 'illā lamma yi'ul ism -u.*
 (否定辞) 誰か一人 (否定辞) 言う 3男単・未完 何か ~以外 ~とき 言う 3男単・未完 名前 3男単・斜格

自分の名を名乗ってからでなければ、誰も何も言うてはいけない。(Sālim, p.93)

これは、「私があなたに言ったとき」「自分の名を名乗ったとき」というある未来の時点を示しているとも解釈できるが、今後一切かくあるべし、という発話時点からあと全てを指示する、ある程度抽象的な例文でもある。これらは、特定の時を指示して具体的な出来事を示す文と、次のような、時間を特定しない抽象的あるいは普遍的な事柄を表す文との中間的な例文である。

例文37) **lamma** *talāta* 'arba'a **yit'arraḍu** *li-* *mu'amlā miš..* (略) *zarīfa..*
 ~とき 3 4 歯向かう 3複・未完 ~に 扱い 女単 (否定) 愉快な 女単
ma- *yib'ā* -š *ma'na kida 'inni 'ahāli Ṭiba kullu -hum*
 (否定辞) なる 3男単・未完 (否定辞) 意味 そのような ~こと 人々 テーベ 皆 3複・斜格
yit'assaru.
 影響される 3複・未完

3~4人が不愉快な扱いに抵抗しても、それは、テーベの人々全員がそれに影響されるとか、そういう意味にはなりません。(Sālim, p.108)

lamma 節に無標的未完了形が使われている例の残り7例のうち6例は、この例文36)のように、主節もまた無標的未完了形が用いられて、抽象的・普遍的な事柄を表すものであった。

ここで、Sālimで *bi-*未完了形が用いられている2例を見ると：

例文38) **lamma** **bi-** **tkūn** *fiḥ waḏāyif miḥtāga* *li-* 'u'ul *kibīra..*
 ~とき ~である 3女単・未完 ある 仕事 複 必要である 能分・女単 ~を 頭脳 複 大きな 女単
kullu -ku(m) tit'addimu..
 皆 2複・斜格 進み出る 2複・未完

大きな頭脳を必要とする仕事があるとき、あなたたちは皆、進み出る。

lamma yikūn *fiḥ muṣība.. kullu -ku(m) ti'milu 'aḡ biya...*
 ~とき ~である 3男単・未完 ある 不運 皆 2複・斜格 する 2複・未完 馬鹿 複
 不運があると、あなたたちは皆、馬鹿をやるのよ。(Sālim, p.40)

例文39) **lamma** *-l-* *xōf bi-* **yissallil** *li-* 'alb 'insān, *bi-* **yixtilit** *bi-*
 ~とき (限定辞) 恐怖 浸透する 3女単・未完 ~に 心 人間 混ざる 3男単・未完 ~に
damm -u wi- 'a'l *-u wi-* 'aḥlām *-u..*
 血 3単・斜格 と 理性 3単・斜格 と 夢 複 3単・斜格

恐怖が人間の心に染み込むと、それはその人間の血と理性と夢に混じるのです。(Sālim, p.106)

主節は前者が無標的未完了形、後者が *bi-*未完了形となっているが、いずれも一般的な事実を示している。ここで、例文38)で、*bi-tkūn*—すなわち、*kān* (to be) の未完了形に *bi-*の付いた形—が用いられている。しかし通常、直説の現在時制では *kān* (to be) は用いられない。「仕事がある」のような、現在の存在を表すには、*fiḥ waḏāyif* (*fiḥ* : 直訳 in him/it) や、*hināk waḏāyif* (*hināk*: there) のような表現が用いられる。

bi-tkūn という、この原則破りの表現は、一般的事実を表す無標的未完了形 *t(i)kūn* との意味の近さを示す効果があるものと思われる。

以上のような抽象的な叙述は、前項と同じく、*bi-*未完了形と無標的未完了形との境目に位置するものと言え、前節で述べた両者の用法と並行する図式である。

lamma 節に無標的未完了形の用いられる例の最後は、主節で *bi-*未完了形が用いられているのである。高官たちがエディプスを神に仕立てようとするのに対し、エディプスは「何故、お前たちがそうしなければならないのか、その必然性がわからない」と訴える。それに答えたテー

べの町議会の議長の台詞：

例文40) *in- nās bi- tihtirim -na 'aktar lamma ti'raf 'inni rayis*
(限定辞) 人々 尊敬する 3女単・未完 1複・斜格 より多く ~とき 知る 2女単・未完 ~こと 長
-na 'ilāh..
1複・斜格 神

我々の長が神であると知るとき、人々は我々をもっと敬うのです。(Sālim, p.106)

この場合は、*lamma* 節では、まだ実現されていないことを表す無標的未完了形が用いられているが、人々が「我々の長が神であると知る」未来の時点を選定した文ではなく、主節で、*bi-*未完了形によって抽象的な事柄を表しており、*lamma* 節と主節がずれた関係になっている。人々はまだエディプスが神であるとは知らず、これは実現されていない事柄だが、いったんそうと知れば、確実に尊敬の念を抱くことが、一般的な事実として定着するのだという意味合いが、このような形式上のずれを生んでいる。

以上のように、まず特定の時を指示する場合、視点の置き方や主節との時間関係によって、既に起こったものと見なされる場合は、*lamma* 節内であっても無標的未完了形にはならない。すなわち、無標的未完了形は、いつの時点から見たにせよ、「まだ実現していないこと」を表している。これには、実際に実現したことだが、視点を置いた時点から見るとまだ実現していないことと、死のように必ず実現するか、あるいは実現が確実に見込まれることだが、発話時点から見てまだ実現にいたらないことの、双方を包括しており、いずれも現実世界で具体的な形で生じていないことである。そして無標的未完了形の普遍的な事柄を示す用法も、このような具体性のなさの延長上にある。すなわち、一般的なことがらを述べ、特定の時間に起こる具体的な個別の事柄を表すのではない、脱時間・脱具体性という性質と、まだ実現していない事柄を表す非具体的な性質とは連続している。

先程の例文28) *lamma (a)mūt 'ana ha-ti'milu 'ēh..?* (私が死んだら、お前達はどうするつもりだ?) や、例文29) *lamma tit'addim šuwayya ha-tifham.. wi-ha-tit'awwid..* (お前もちょっと進歩すれば、わかるだろうし、慣れるだろうよ。) の例で、(a)mūt (私が死ぬ) や tit'addim (お前が進歩する) を、単純に未来形の代用とは考えられないのではないか、と述べたのもこのためである。発話時点に視点を置いたと考えれば、確かにどちらも未来であるが、「何らかの時点で、まだ実現していないこと」を表すと解釈した方が、過去について語っている例文30)、31) の例まで包括して考え、かつそれらと普遍的な非アクチュアル的用法との連続性を視野にいたした場合、より合理的である。因みに、*lamma* 以外の時を示す接続詞に導かれた節でも、未来時制を示す *ha-*未完了形は全く見られなかった。無標的未完了形そのものが未実現を表すのだから、それにさらに *ha-* を付ける必要はないのだとも言えるだろう。

無標的未完了形の以上のような、一般的な事柄を表す非アクチュアルな概念的な側面と、現実世界で具体的な形で生じていないことを示す側面との連続性については、次項でも触れていきたい。ともあれ、時を示す従属節内の未完了形の用法まで含めると、*bi-*未完了形と無標的未完了形の関連は、次のようにまとめておく：

よれば、全く自然だそうである。(能動分詞については、また次節で吟味したい。)

他方、条件文に順ずる構文で、条件節にあたる部分が *law* や *iza* 以外で導かれる場合には、未完了形が用いられている：

例文46) 'ayy garīma bi- tiḥṣal rayīs iṣ- šurṭa bi- yfakkar fī
 どんな～ 犯罪 起こる 3 女単・未完 長 (限定辞) 警察 考える 3 男単・未完 ～について
 -ha wi- b- zakā' -u yi'raf mīn il- mugrim..
 3 単女・斜格 そして ～によって 賢さ 3 男単・斜格 知る 3 男単・未完 誰 (限定辞) 犯人
 どんな犯罪でも起これば、警察署長がそれについて考え、彼の知恵によって誰が犯人かが
 判明するのだ。(Sālim, p.30)

例文47) 'ayy wāhid yi'mil ḥāga ḍiddi Ṭība ḥaḍritak mas'ūl 'inn
 どんな～ 一人 する 3 男単・未完 こと ～に対抗して テーベ あなた 男単 責任を負った 受分・男単 ～こと
 -ak tiwa'af -u 'andi ḥadd -u..
 2 男単・斜格 止める 2 男単・未完 3 男単・斜格 ～のもので 限界 3 男単・斜格
 誰でもテーベに楯突くことをした者は、あなたに、その者を押し留める責任があります。
 (Sālim, p.54)
 条件文については、また稿を改めて考察したいと思う。

3.3 「実現していないこと」からの派生的用法

3.3.1 不確実性を表す用法

現実世界で具体的な形で生じていないことを示す無標的未完了形の用法は、時を示す従属節以外でも見られ、具体性のある *bi*-未完了形と対比的に用いられている。

例文48) lāzim ni'raf ḥagm -u 'add 'ēh .. sumk gild -u..
 必要だ 知る 1 複・未完 大きさ 3 男単・斜格 どのくらい 厚さ 皮 3 男単・斜格
 我々は知らねばならぬ。そいつ(=怪物)の大きさはどのくらいかを。そいつの皮膚の厚さを。

'ēn -u bi- tšūf li- mada 'add 'ēh ?
 眼・女 3 男単・斜格 見る 3 単女・未完 ～に 度合い どのくらい
 そいつの目がどのくらい見えるのかを。

fī 'ayy makān min gism -u ḍ- ḍarba tikūn mu'assira
 ～において どの 場所 ～のうちの 体 3 男単・斜格 (限定辞) 殴打 ～である 3 単女・未完 影響のある 単女・受分
 そいつの体のどの場所を打てば効果があるのかを。

bi- yiḥarrak izzāy.. sur'it -u 'add 'ēh .. bi- ynām 'imta.. w-
 動く 3 男単・未完 どのように 速度 3 男単・斜格 どのくらい 眠る 3 男単・未完 いつ そして
 kam sā'a ?
 幾つ 時間

どう動くのかを。速度はどのくらいかを。いつ、そして何時間眠るのかを。(Sālim, p.95)

怪物は現実存在するので、怪物の大きさや皮の厚さも現実存在する。また生物であるから、見たり動いたり眠ったりということも当然ありうる、と話者は考え、これらは全てコピュラ無し名詞文¹¹⁾や *bi-*未完了形によって表されている。しかし、急所を殴るということに関しては、怪物に急所があるのか、あるとしたらそれはどこか、という不確実な話で、怪物のどこかを殴ると影響が出るということは、現実かどうかわからない。そのため、この件に関してだけ無標的未完了形 *tikūn* (“to be” 3単女・未完) が用いられている。似たような例として：

例文49) *il- wuhūš ha- t'ūl 'alγ āz lēh.. ?*

(限定辞) 怪物 複 (未来) 言う 3単女・未完 なんとなく 複 何故

怪物たちが、なんとなくを言うだろうとは、何故だ？

il- wuhūš tisti'mil 'a'l -ha lēh.. ?..

(限定辞) 怪物 複 使う 3単女・未完 頭脳 3単女・斜格 何故

怪物たちが、頭脳を使うだろうとは、何故だ？

il- wuhūš bi- tisti'mil 'aḍalat -ha wi- nyab -ha.

(限定辞) 怪物 複 使う 3単女・未完 腕力 3単女・斜格 ~と 牙 3単女・斜格

怪物たちは、その腕力と牙を使うのだ。

il- wuhūš bi- tisti'mil maxālib -ha w- ḍawāfir -ha..

(限定辞) 怪物 複 使う 3単女・未完 鉤爪 3単女・斜格 ~と 平爪 3単女・斜格

怪物たちは、その爪を使うのだ。(Sālim, p.34)

ここで、*tisti'mil* (使う 3単女・未完) は、その前の *ha-t'ūl* (未来-言う 3単女・未完) との繋がりで、*ha-tisti'mil* (未来-使う 3単女・未完) と解釈するのが妥当であろうし、実際これを *ha-tisti'mil* と置換えても自然である。しかし、これを *bi-tisti'mil* (現在-使う 3単女・未完) と置換えると、「腕力と牙と爪で勝負する怪物たちが、頭を使うなんてことがあるか？」というニュアンスが消えて、「怪物たちは、なぜ頭脳を使うのだろうか」と、実際に怪物が頭脳を使っていることを認めるような表現になり、後の文と趣旨が一貫せず不適切である。

さらに、次の例では、カリヨンが *bi-*未完了形を用いているのにも関わらず、エディプスが無標的未完了形を用いて対応している：

例文50) *Karyūn: (略) lākin is- silāh miš bi- yhārib li-waḥd -u..*

カリヨン しかし (限定辞) 武器 (否定辞) 戦う 3男単・未完 ひとりで 3男単・斜格

カリヨン：しかし、武器はそれ自身で戦うのではありません。

is- silāh bi- yhārib bī -h rāḡil..

(限定辞) 武器 戦う 3男単・未完 ~で 3男単・斜格 男

武器は、男がそれを持って戦うものなのです。

11) 現在時制の直説法で「AはBである」と述べる場合、AとBの間にはコピュラを入れない。この例では、*ḡam-u 'add 'eh* や *sur'it-u 'add 'eh* がこれに当たる。前項の例文38) の説明も参照。

mīn illi bi- ydarrab ir- rāgil.. ?
 誰 関代 訓練する 3 単男・未完 (限定辞) 男
 誰がその男を訓練するのでしょうか？

'*Udīb: ydarrab -u 'ala 'ēh.. ?*
 エディプス 訓練する 3 単男・未完 3 単男・斜格 ~について 何
 エディプス：その男に何の訓練をするのだ？ (Sālim, p.104)

カリヨンが、具体的に存在するものとして *bi-* 未完了形で言い表した訓練であるが、ここでエディプスが無標的未完了形を用いたことにより、エディプスは訓練の存在そのものを知らなかったことが表現される。これを *bi-ydarrab* と置きかえたり、また例えば、意志的なムードを表す *nāwi* (～するつもり) を用いて、*nāwi ydarrab-u 'ala 'ēh.. ?* (何の訓練をするつもりなのか?) などのように言うと、訓練のあることは知っていたが、何の訓練かは知らなかったという意味合いに変化してしまう。

具体性を表す *bi-* 未完了形の例として：

例文51) *il- muxtara'āt di kulla -ha ha- tithawwil li- dahab.. wi -d- dahab*
 (限定辞) 発明品 複 この 女単 全て 3 女単・斜格 (未来) 変わる 3 女単・完了 ~に 黄金 そして (限定辞) 黄金
fi -l- 'āxir bi- yšubb fi maglis il- madīna wi -l- ḡurfa -t- tigarīyya..
 ~に (限定辞) 最後 注ぐ 3 単男・未完 ~に 議会 (限定辞) 町 と (限定辞) 部屋 (限定辞) 商業の 女単
 この発明品はすべて、黄金に変わるとでしょう。そしてその黄金は、最後に、町議会と商工会議所に流れ込むのです。(Sālim, p.73)

発明品が黄金に変わるのが未来のことであるから、その黄金が流れ込んでくるのは、さらに先の未来になるはずなのだが、現在時制を示すとされる *bi-* 未完了形が用いられている。この *bi-* は外しても、文脈と矛盾はしないが、*bi-yšubb* だと、確実に黄金が流れ込んでくるという意味合いが含まれ、エディプスに発明をするよう促すこの場面にはより相応しい。

次の、アワーリフのエディプスに対する台詞でも：

例文52) *it- taḥarriyāt wi -t- ta'rīr illi gat l -i bi- tisbit*
 (限定辞) 報告書 複 と (限定辞) レポート 複 関代 来る 3 女単・完了 ~に 1 単・斜格 証明する 3 女単・未完
ya mawlā -y, 'inn -ak bi- tinḥidir ra'san min ṣulbi 'āliha..
 ~よ 主人 1 単・斜格 ~こと 2 男単・斜格 下る 2 男単・未完 直接 ~から 子孫 神々
 私に届いた報告書やレポートは、ご主人様、あなたが直接神々から下ってきていることを証明しているのです。(Sālim, p.53)

報告書が書かれたのも、エディプスが(もしかすると神の血統を受け継いで)生まれてきたのも、過去の話であるが、現在時制を示すとされる *bi-* 未完了形を用いて表現されている。完了形で「証明した」「下ってきた」と言ってしまうと、過去にそうしたことがあったという記述に終わってしまう。しかし、*bi-* 未完了形を用いた場合は、報告書が書かれたりエディプスが生まれてきたことの結果の、現在に至るまでの継続およびそれによる効果の現在に至るまでの持続を示していると考えられる。

3.3.2 具体性の少ない事柄を示す用法

現実世界で具体的な形で生じていないことを示す無標的未完了形の機能として、具体性の少ない、すなわち抽象的な意味を表す用法もある。例えば次の例で、*timši* という無標的未完了形は「歩く」という具体的な意味ではなく、抽象的、またはある種比喩的な「進む、進展する」のような意味合いを持たされている：

例文53) 'inta bi- šifat -ak rayīs il- ḡurfā -t- tigariyya yihimm
 2男単・主格 ~によって 性質 2男単・斜格 長 (限定辞) 室 (限定辞) 商業 関心を持たせる 3男単・未完
 -ak 'inn it- tigāra **timši** wi- xazayn -ak **titmili**
 tāmi.

2男単・斜格 ~こと (限定辞) 商業の女単 歩く、進む 3女単・未完 そして 金庫 2男単・斜格 満ちる 3女単・未完 再び
 あなたは、商工会議所所長として、商業が進み、あなたの金庫が再び満ちることに関心があるのだ。(Sālim, p.27)

ここで、*it-tigāra timši* (商業が進み) と無標的未完了形を使うと、商業が順調に進んでいるさまが表されるが、これを、**it-tigāra bi-timši* のように、*bi*-未完了形にしてしまうと、具体的な「歩く」という動作、つまり、ゆっくり一歩ずつ歩いているようなイメージとなり、商業の状況を述べるのに使うのはおかしい。また、*xazayn-ak titmili* (あなたの金庫が再び満ちる) で、**xazayn-ak bi-titmili* のように *bi*-未完了形を用いることはできないし、もし使ったとすると、「歩く」の例と同様に、金庫の中にちびちびと貯まっていくような言い回しになり、「金庫が満ちる」という意味合いは失われる。ただし、後述するように、能動分詞で置換えた場合には原義は損なわれない。

また、完了形と並行して用いられている例では：

例文54) *māt il- malik, 'ās il- malik.. yirūḥ 'Aḥmus*
 死ぬ 3男単・完了 (限定辞) 王 生きる 3男単・完了 (限定辞) 王 行く 3男単・未完 アモス
yīgi Ramsīs.. yirūḥ Minā yīgi Tuhutmus..
 来る 3男単・未完 ラムセス 行く 3男単・未完 メナ 来る 3男単・未完 トトメス
 王が死に、王が生きた。アモスが行き、ラムセスが来て、メナが行き、トトメスが来て・・・
 (Sālim, p.71)

これを *rāḥ 'Aḥmus, gēh Ramsīs* などのように完了形にすると、単純に、*māt il-malik, 'ās il-malik* に準じる事実を列挙しているだけの文になるが、原文のように無標的未完了形を用いた場合では、王が来ては逝くその歴史の繰り返されるさまを表現する、やや抽象度の高い言い回しとなっている。

逆に、語られたイベントそのものが現実世界のものでなくとも、語られているイベントの起きた別の世界の中で実現されているものは、*bi*-未完了形で示される。これは特に“*wi*-主格の代名詞”で導かれる状態を示す従属節内で見られる：

例文55) 'azīm 'awi 'inn il- wāhid yi'ābil ik- kawāris wi- huwwa
 すごい とても ~こと (限定辞) 人 会う 3男単・未完 (限定辞) 災い 複 そして 3男単・主格

bi- yidhak ..

笑う 3男単・未完

人が、笑いながら災いに会うなんて、とてもすごいことだ。(Sālim, p.32)

「笑う」という行為は、後述する「いわゆる不定詞的な用法」にあたり、実際に誰かが笑いながら災いにあったわけではなく、もしそういう事態が実現したとしたら、とてもすごいことだ、ということである。しかし、誰かが笑いながら災いに会うという仮定の世界の中では、「彼が笑う」というのは「彼が災いに会う」ことが仮定された世界の中では実現している。さらに、ここでは「普通は災いに会うときに笑ってなどいられないはずだが」という含みがあり、「笑いながら」は単に付随的な出来事ではなく、災いに会うことと対等な重さを持っている。

完了形で表される過去に既に起こった出来事と同時進行でなされた行為も、*bi-*未完了形で表される：

例文56) *imbāriḥ bi -l- lēl w- ana b- adawwar fi wasāyi' 'Amūn wi-*
 昨日 ~に (限定辞) 夜 そして 1単・主格 ~を探す 1単・未完 書類 複 アモン と

Ra' il- maḥfūza 'andi -na fi 'aršif il- ma'bad laḥaḏt 'inn
 ラー (限定辞) 保管する 受分・女単 ~のもとに 1単・斜格 ~に 棚 複 (限定辞) 礼拝所 見つける 1単・完了 ~こと

ism 'Uḏib taraddad fi sab' wasāyi' bardī..

名 エディプス 繰り返す 3男単・完了 ~に 7 書類 複 パピルスの

昨晚、我々のところ、礼拝所の棚に保管してあるアモンとラーの書類を探していたとき、私は、エディプスの名がパピルスの書類7部に繰り返し現れているのを見つけました。

(Sālim, p.51)

b-adawwar (私が探している) は、昨晚、書類を *laḥaḏt* (見つけた) その時点で、私が行っていた行為であり、過去の出来事ではあっても、主動詞 *laḥaḏt* (見つけた) が実現した世界では現実に行進していた、かつ見つけたと言う結果に直結した行為で、それが *bi-*未完了形で表されている。

逆に、前項3.2.2 *lamma* 節内の完了形と未完了形で「*lamma* 節がさらに別の従属節内に存在する例」として除外した例：

例文57) *il- waḥṣ il- 'abīṭ illi bi- yxalli -ku(m) tistannu dayman*
 (限定辞) 怪物 (限定辞) 馬鹿な 関代 ~させる 3男単・未完 2複・斜格 待つ 2複・未完 常に

lamma yīgi ḥadd yihilli l- ku(m) mašākil -ku(m) wi-
 ~とき、まで 来る 3男単・未完 誰か 解く 3男単・未完 ~ために 2複・斜格 問題 複 2複・斜格 そして

tiddū l -u 'ayy hāga..

与える 2複・未完 ~に 3男単・斜格 どれ、どんな 物

馬鹿な怪物が、お前たちを、いつも誰か自分たちの問題を解決してくれる人が来るまで待ち、その人にどんな物でも与えてしまうようにさせているのだ。(Sālim, p.47)

この例でも *tistannu* (お前たちが待つ) は、怪物が待つようにさせたわけで、後述する不定

詞的用法である。もちろん実際に“お前たち”が待っているという事実があるのだが、この文は、*tistannu*（お前たちが待つ）ということ想定して、怪物が人々をそのような状態にさせている、という表現であり、その結果として現実世界で“お前たちが待つ”ことが実現するのは別である。そして、その想定された *tistannu*（お前たちが待つ）の世界で、*yīgi hadd yihilli l-ku mašākil-ku*（誰か自分たちの問題を解決してくれる人が来る）ということが不確実であるから、ここでは無標的未完了形 *yīgi* が用いられている。

このような、*bi-*未完了形の具体性を表す機能により、臨場感の感じられる表現がなされる。例えば：

例文58) *'amma (a)šūf 'ana b- aššitim 'izzāy..*
 ~まで 見る 1単・未完 1単・主格 罵られる 1単・未完 どのように
 私が、自分がどんな風に罵られているか知るまでは。(Sālim, p.92)

において、*b-aššitim*（罵られている）と、*bi-*未完了形を用いることで、今、現に罵られているという緊迫感が生まれるが、これを *aššitim* と無標的未完了形にすると、罵られるという事実があります、といった事実の記述になってしまい、臨場感も失われる。

また、野次を飛ばされた演説者が怒って吐く台詞：

例文59) *mīn illi bi- yitkallim.. illi bi- yitkallim yi'ūm yi'af.* (ト書き省略)
 誰 関代 話す 3男単・未完 関代 話す 3男単・未完 立つ 3男単・未完 立つ、止まる 3男単・未完
 喋っているのは誰だ？ 喋っている奴は立て。

illi bi- yitkallim yi'ūm yi'af. (ト書き省略) *..illi bi- yitkallim*
 関代 話す 3男単・未完 立つ 3男単・未完 立つ、止まる 3男単・未完 関代 話す 3男単・未完
xāyif lēh.. ?
 恐れる 能分・男単 何故
 喋っている奴は立て。喋っている奴は何故こわがっている？

yi'ūl ism -u 'ašān nisbit -u fī maḥdar ig- galsa.. (ト書き省略)
 言う 3男単・未完 名前 3男単・斜格 ~ため 書きとめる 1複・未完 3男単・斜格 ~に 議事録 (限定辞) 会議
 自分の名前を言え、我々がそれを議事録に記録するために。

mīn illi bi- yitkallim .. ?.. iṣ- šōt gāy min in- nahya di..
 誰 関代 話す 3男単・未完 (限定辞) 声 来る 能分・男単 ~から (限定辞) 側 これ 女単
 喋っているのは誰だ？声はこっちの方から来ているな。

mīn illi itkallam ..illi 'āyiz yitkallim yirfa' 'id -u
 誰 関代 話す 3男単・完了 関代 ~したい 能分・男単 話す 3男単・未完 上げる 3男単・未完 手 3男単・斜格
wi- yuṭlub ik- kilma
 そして 求める 3男単・未完 (限定辞) 言葉
 喋ったのは誰だ。喋りたい者は、手を挙げて、発言権を求め、

wi- y'ūl ism -u..
 そして 言う 3 男単・未完 名前 3 男単・斜格

自分の名前を言いなさい。(Sālim, p.91)

野次を飛ばされた直後からえんえんと話し続け、かなり時間がたっても *bi-*未完了形である *bi-yithkallim* (喋っている) を使い続け、その後でやっと完了形 *ithkallam* (喋った) に切り替わっている。完了形に切り替わったことにより、話が一段落した、言いたいことを言い終わったという印象が生み出されている。飛んできた野次に対して目下の出来事として怒りをぶつけているのが *bi-*完了形の使用段階で、言いたいことを言い終わって、野次が飛んできたのを過去の出来事と見なしたのが、完了形の使い始めであるといえる。このように目下の出来事として、物事を臨場感を持って伝える *bi-*未完了形の機能は、無標的未完了形のそれと対照的である。

逆に、無標的未完了形を別の動詞に添えて用いると、その行為の目的等を表すことになる。

例文60) *Karyūm rāyih yi'ābil il- waḥṣ li-waḥd -u..*
 カリヨン 行く 能分・男単 会う 3 男単・未完 (限定辞) 怪物 ひとりで 3 男単・斜格
 カリヨンが、怪物に会うために一人で行ってしまう。(Sālim, p.115)

また、次のように同時に起こっていても、主たる行為に対して付随的ではない場合には、無標的未完了形が用いられる：

例文61) *sā'it ma ḥili't tigrī tihill il- luḥz..*
 ~とき 登る 2 男単・完了 走る 2 男単・未完 解く 2 男単・未完 (限定辞) なぞなぞ
 あなたがなぞなぞを解くために、走って登っていったとき (Sālim, p.57)

例文62) *'intu(m) fi'lan 'a'dīn ti'ayyaṭu.. bi- tultumu kamān...*
 2 複・主格 実に 座る 能分・男複 泣く 2 男複・未完 両頬を叩く 2 男単・未完 ~もまた
 ほんとうにあなたたちは、泣きながら座っている。両頬を叩いて (注：悲しみを表すしぐさ) もいる。(Sālim, p.32)

3.3.3 未来、そしてムードを表す用法

現実世界で具体的な形で生じていないことを示す無標的未完了形の用法のもうひとつの形として、未来を示す用法がある。3.2.1 時を示す従属節内の無標的未完了形でも見たように、ある時点から見て、まだ実現されていないことを無標的未完了形で示すという用法があったが、時を示す従属節以外でも、類例が見られる。

例文63) *il- 'aḍiyya -l- 'asasiyya ya sayyid Tirizyas 'an fih luḥz.. wi-*
 (限定辞) 問題 (限定辞) 基本的な 女単 ~よ ~様 テレジマス ~こと ある、存在する なぞなぞ そして
maṭlūb wāḥid yiḥill il- luḥz..
 求める 受分・男単 誰か 解く 3 男単・未完 (限定辞) なぞなぞ

基本的な問題は、テレジマス様、なぞなぞがあるということなのです。そして、誰かそのなぞなぞを解く人が求められているのです。(Sālim, p.33)

現実にあるなぞなぞについては、*fiḥ* という「(現在) ある」という表現が用いられているが、なぞなぞを解く人については、*yihill* という無標的未完了形が用いられている。なぞなぞを解くことは、これから先のこととして願われ望まれていることであるが、*ḥa-yihill* と未来形を用いると、解いてくれるべき、といった近い将来への期待のようなものが感じられない。

あるいは、次の例（例文53と重複している部分がある）：

例文64) *huwwa da lli yihimm -ak.. 'inta bi- šifat*
 3 男単・主格 これ 男単 関代 関心を持たせる 3 男単・未完 2 男単・斜格 2 男単・主格 ~によって 性質
-ak rayis il- ḡurfa -t- tigariyya yihimm -ak 'inn it-
 2 男単・斜格 長 (限定辞) 室 (限定辞) 商業の 単女 関心を持たせる 3 男単・未完 2 男単・斜格 ~こと (限定辞)
tigāra timšī wi- xazayn -ak titmili tāni.
 商業 歩く、進む 3 女単・未完 そして 金庫 2 男単・斜格 満ちる 3 女単・未完 再び
 これが、あなたの関心事なのだね。あなたは、商工会議所所長として、商業が進み、あなたの金庫が再び満ちることに関心があるのだ。(Salim, p.27)

ここで、*bi-yihimm-ak* と *bi-* 未完了形を使うと、目下のところの、言い換えれば一時的な関心事という意味合いになるが、原文のように *yihimm-ak* と無標的未完了形にすれば、今だけでなく今後ともいう継続的な意味が出る。

例文65) *'Udīb: (略) lamma (a)mūt 'ana ḥa- ti'milu 'eh .. ?*
 エディプス ~とき 死ぬ 1 単・未完 私 する 2 複・未完 何
 エディプス：私が死んだら、お前達はどうするつもりだ・・・？

il-ahāli: timūt ?.. ? 'Udīb yimūt .. ?
 人々 死ぬ 2 男単・未完 エディプス 死ぬ 3 男単・未完
 人々：あなたが死ぬ？・・・エディプスが死ぬのですか・・・？

'Udīb: 'aywa.. 'Udīb yimūt ..
 エディプス はい エディプス 死ぬ 3 男単・未完
 エディプス：そうだ。エディプスは死ぬのだ・・・。

il-ahāli: 'Udīb 'ilāh..
 人々 エディプス 神
 人々：エディプスは神です・・・。

'Udīb: la'.. 'Udīb 'insān..
 エディプス いいえ エディプス 人間
 エディプス：いいや。エディプスは人間だ。(Salim, p.98)

ここでは、エディプスは神ではなく人間なのだからいずれは死ななければならない、死ぬ運命にある、という意味合いで、*timūt* (死ぬ 2 男単・未完) *yimūt* (同 3 男単・未完) という無標的未完了形が用いられている。これらを、*ḥa-tmūt*, *ḥa-ymūt* という未来形で置き換えてしま

うと、単に個別的に、エディプスは将来死ぬであろうというだけの意味になってしまい、人間として必然的な運命としての死を述べる台詞ではなくなってしまう。

このような現在とつながりのある未来を示す無標的未完了形の用法は、未来への願望やこれから先のことに対する意志を示す、ムード的な用法につながっていく。例えば、次のような意志を示す用法：

例文66) *'aḍahhī bi- kull it- ta'alūd il- mi'addasa.. wi- 'aktar min zālik...*
 ~を犠牲に捧げる 1単・未完 全~ (限定辞) 伝統 複 (限定辞) 聖なる 女単 そしてより多く ~より それ 男単
 私は聖なる伝統の全てを犠牲にいたしましょう。そしてそれ以上のものを。

'aḍahhī bi- nafs -i min'agl 'inqāz Ṭiba..
 ~を犠牲に捧げる 1単・未完 自身 1単・斜格 ~のため 救済 テーベ
 私はテーベを救うために、私自身を犠牲に捧げましょう。(Sālim, p.46)

そして願望文：

例文67) *Allāh yirḥam -u..*
 アッラー 哀れむ 3男単・未完 3男単・斜格
 アッラーが彼を哀れまれますように。(Sālim, p.28)

例文68) *Allāh yixrib bēt -ak ya šēx..*
 アッラー 破壊する 3男単・未完 家 2男単・斜格 ~よ 老人, 師
 シェイフよ、アッラーがあなたの家を破壊なさいますように。(Sālim, p.69)

また、命令・義務を表す用法¹²⁾：

例文69) *'ulti l -u 'alif marra miš 'ayy hāga tit'āl fi*
 言う 1単・完了 ~に 3男単・斜格 千 回 (否定辞) どんな こと 言われる 3女単・未完 ~で
 -t- *tilifōn..*
 (限定辞) 電話
 私は彼に、電話では何も言うな (直訳：何も言われるべきではない) と1000回も言ったのに。(Sālim, p.61)

12) 59) *min illi bi-yūkallim.. illi bi-yūkallim yi'um yi'af..* (以下略)

喋っているのは誰だ？ 喋っている奴は立て。

で、命令文のように訳した *yi'um* (立つ 3男単・未完), *yi'af* (立つ, 止まる 3男単・未完) も「喋っている者は) 立たなければならない」3人称に対する義務を表している。

あるいは、以下のような遂行動詞における用法：

例文70) *'a'lin rafā -i 'inni 'ayy 'ustāz mi(n) i)g- gam'a yirūh*
 宣言する 1単・未完 拒絶 1単・斜格 ～こと どの 教授 ～から (限定辞) 大学 行く 3男単・未完
yihill il- fazzūra..
 解く 3男単・未完 (限定辞) なぞなぞ

私は、どの大学教授がなぞなぞを解きに行くことを拒否することを宣言する。(Sālim, p.27)

例文71) *wi- lzālik 'ana 'aṭlub min il- maglis 'inn -u yismah*
 そして だから 1単・主格 求める 1単・未完 ～から (限定辞) 議会 ～こと 3男単・斜格 許可する 3男単・主格
l- i 'a'bud 'alē -h..
 ～に 1単・斜格 ～を逮捕する 1単・未完 3男単・斜格

だから私は、議会に、彼を逮捕する許可を求める。(Sālim, p.36)

例文72) *'arfud 'inni wāḥid yit'ibid 'alē -h bi- sabab 'arā'i -h.*
 拒絶する 1単・未完 ～こと 誰か 逮捕される 3男単・主格 ～に 3男単・斜格 ～で 理由 意見 複 3男単・斜格

私は、人がその信条を理由に逮捕されることを拒否する。(Sālim, p.27)

ただし、以下のような場合は、*bi-*未完了形が用いられている：

例文73) *gāwib.. 'ana b- āmur -ak 'inn -ak tigāwib..*
 答える 2男単・命令 1単・主格 命令する 1単・主格 2男単・斜格 ～こと 2男単・斜格 答える 2男単・未完

答えなさい。私はあなたに答えるようにと命令しているのですよ。(Sālim, p.27)

これは、上の3例と異なり、自分の意志そのものを表すのではなく、意志を示すという行為を今しているのですよ、という文脈である。つまり、上記3例の「宣言する」「求める」「拒否する」という動詞は、それによってその行為自体を述べているだけではなく、そう述べることによって、その行為を行なっている遂行動詞である。それに対して例文73)は、はっきりと答を言わない臣下に対して、女王が、「私は命令しているのですよ。これは命令なのですよ」と、現時点で自分自身が命令するという行為をしていることを描写するものである。

もしこれを、無標的未完了形に置きかえると、

例文74) *'ana 'āmur -ak 'inn -ak tigāwib.*
 1単・主格 命令する 1単・主格 2男単・斜格 ～こと 2男単・斜格 答える 2男単・未完

私はあなたに答えるようにと命令します。

のように、「命令します」と言うことによって実際に命令するという行為を行なっていることになり、実質的に「答えなさい」という命令文の働きをすることになる。

未来と絡むこうしたムード的な表現について、亀井他(1996, p.636)も、時制の説明中で「大体、未来の事は常に不確実であるから、常にたかだか蓋然的でしかない。その蓋然性の表示から可能性の叙述に移り、主観的には意志や願望を表わすことになって、法(mood)と交錯するようになる。」と未来の表現とムードとの関連の一般性に言及している。

また、亀井他（1996, p.833）では、ラテン語の主節における接続法の3つの意味、すなわち「意志」「願望」「可能性」についての解説において、「3つに共通する意味的な特徴は、話し手が文を発話している時点における世界において、文の表示する事態が真ではないということである。しかし、真でないからといって、偽であると主張しているわけでもない。すなわち、発話時点における、話し手が属しているのとは異なる、ある別の世界においては真であるのだと主張しているのである。接続法のこの根本的意味に、語用論的な状況を適用した結果派生してくるのが「意志」等の個別的な意味である、と考えられる。」と述べ、“発話時点における話し手が属する世界において、文の表示する事態が真ではない”ことを、意志等のムードの共通項として挙げ、そこから派生してきたのが「意志」「願望」「可能性」といったそれぞれの意味だとしている。

これは、アラビア語エジプト方言の無標的未完了形が、現実世界で具体的な形で生じていないことを示す機能を持ち、そこから派生して上記のようなムードの意味合いが生まれてくる様とも一致している。

3.3.4 無標的未完了形のいわゆる不定詞的な用法

現実世界で具体的な形で生じていないことを示す無標的未完了形の用法の最たるものが、無標的未完了形のいわゆる不定詞的な用法（2.1の2.無標的未完了形（b）従属節で用いられる場合の iv.；未完了相と人称・性・数が表されているのだから正確には不定詞ではないが、英語の不定詞の用法と共通点が多いことで「いわゆる不定詞的な」と説明されることが多い。本稿でも「いわゆる」をつけておく。）である。

例文75) ‘*eb* *tī’ūl* *hāga zayy kida li- wāhid ‘addi wald -ak.*

悪、恥 言う 2男単・未完 こと ~のような そのような ~に 誰か、一人 ~のような 父 2男単・斜格

あなたの父のような人に向かって、そのようなことを言うてはいけません。(Sālim, p.77)

この例は、「あなたの父のような人に向かって、あなたがそのようなことを言うこと」という意味で、無標的未完了形が用いられ、それが罪である、という構文になっている。また、前に出てきた例で：

例文57) *il-waḥš il-‘abū illi bi-yxalli-ku(m) tistannu dayman lamma yīgi hadd yihilli l-ku(m) mašākil-ku(m) wi-tiddū l-u ‘ayy hāga..*

馬鹿な怪物が、お前たちを、いつも誰か自分たちの問題を解決してくれる人が来るまで待ち、その人にどんな物でも与えてしまうようにさせているのだ。(Sālim, p.47)

は、無標的未完了形の句が、「お前たちが、いつも誰か自分たちの問題を解決してくれる人が来るまで待ち、その人にどんな物でも与えてしまうこと」という意味を持ち、「馬鹿な怪物が、そのことを、お前たちに対して保っている」という構文である。

この不定詞的用法の無標的未完了形は、しばしば、‘*āwiz* “～したい”， *nāwi* “～するつもり”， ‘*ārif* “～できる”（以上は主語の性・数により変化）や *mumkin* “～できる”， *yumkin* “～かもしれない”， *lāzim*, *ḍarūri*, *mafrūd* “～しなければならない”（以上、不変化）のようなムードを表す語とともに用いられる：

例文76) **'āwiz** **tkassar** *it-* *tilifziyūn* *wi-* **tkassar** *ir-* *rādiyu..*
 ~したい 能分・男単 壊す 2男単・未完 (限定辞) テレビ そして 壊す 2男単・未完 (限定辞) ラジオ
wi- **tkassar** *it-* *tilifōn..*
 そして 壊す 2男単・未完 (限定辞) 電話
 (あなたは) テレビを壊し、ラジオを壊し、電話を壊したいのね。(Sālim, p.64)

例文77) *yib'a* **nāwi** **tikdib..**
 なる 3男単・未完 ~するつもり 能分・男単 嘘をつく 2男単・未完
 すると、お前は嘘をつくつもりだな。(Sālim, p.76)

これらは、それぞれ「壊すことを欲する」「嘘をつくことを意図する」というのが原義である。ただし、このような用法の中には、無標的未完了形そのものがムードを表す場合と区別の難しいものがある：

例文78) **nitfarrag** *'a(la)* *-t-* *tilifziyūn* **'ahsan.**
 ~を見る 1複・未完 (限定辞) テレビ より良い
 テレビを見よう。その方が良い。(Sālim, p.63)

nitfarrag 'a(la)-t-tilifziyūn “私たちがテレビを見ること”が主語で、それが *'ahsan* “より良い”，すなわち「私たちはテレビを見た方が良い」という文で、通常は、

例文79) **'ahsan nitfarrag** *'a(la)* *-t-* *tilifziyūn.*
 より良い ~を見る 1複・未完 (限定辞) テレビ
 テレビを見る方が良い。

と、他のムードを表す語と同じく、*'ahsan* が無標的未完了形の句の前に来る語順となるが、これが例文78例文のように倒置された結果、無標的未完了形 *nitfarrag* “私たちが見る”が勧誘の意味合いを持ち、*'ahsan* “より良い”の主語としての不定詞的動詞句の役割と、勧誘のムードをあらわす働きとを、兼ね備えた状態になっている。

付け加えれば、3.1 で挙げた、超時間的な普遍的事実を表す用法も、ムード的な用法と区別しがたいであろう。例えば、

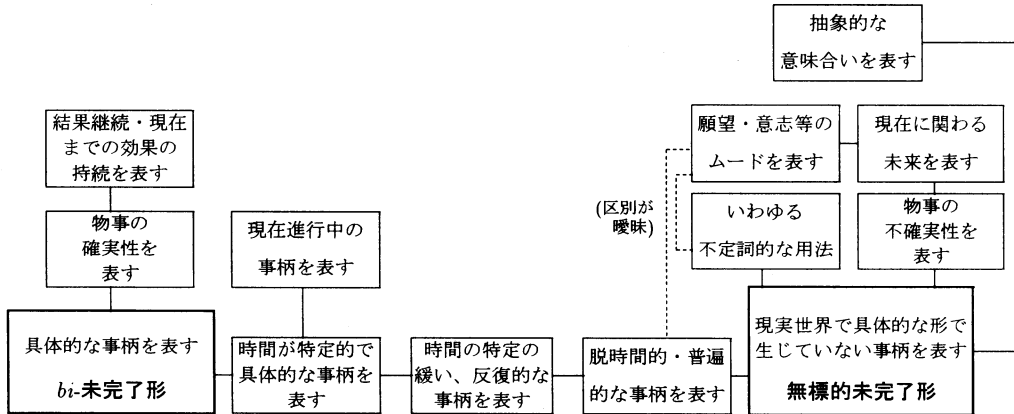
例文80) *il-* **'insān** **yimūt.**
 (限定辞) 人間 死ぬ 3男単・未完
 人は死ぬ。

は、述べているのが普遍的事実であるがゆえに、「人は死ななければならない」「人は死ぬものである」という主観的な意味合いを含んでいるからである。

以上の分析から、無標的未完了形はまず、現実世界で具体的な形で生じていない事柄を表すという基本的性質から、次のような働きを持つことが明らかとなった：

- (1) 脱時間的・普遍的な事柄を表す働き
- (2) 物事の不確実性を表す働き
- (3) 抽象的な意味合いを表す働き
- (4) 現在に関わる未来を表す働き
- (5) 願望・意志等のムードを表す働き
- (6) いわゆる不定詞的な働き

こうした無標的未完了形の用法は、*bi*-未完了形との対比を通して見ると、下図のようにまとめられる：



3.4 能動分詞との関わり

3.4.1 結果を表す能動分詞形

2.2で述べたように、能動分詞形は、基本的に結果を表すことが指摘されている (Wild 1964, Woidich 1975, Eisele 1990, 1999)。例えば、El-Tonsi (1982, pp.33-46) に挙げられた能動分詞の意味のうち、最後にある、過去の出来事・動作の結果たる現在の状況 (その他の動詞) はこれであるし、その他の意味：現在の状態 (状態・態度・知覚を表す動詞)、進行・継続 (移動動詞・起動動詞)、確実な未来 (移動動詞) も、結果の用法からの派生として説明ができる。

例えば、状態・態度・知覚を表す動詞、例えば 'irif (知る) の能動分詞 'arif が、現在の状態 “知っている” を表すのは、何かを「知った」結果が持続して、今「知っている」のであるし、rāh (行く) のような移動動詞や libis (着る) のような起動動詞の能動分詞が、それぞれ rāyih “行きつつある” や lābis “着ている” という進行・継続の意味になるのは、行ってどこかを目指し始めた結果、行きつつあるのであり、何か服を着た結果、今着ているのである。

移動動詞の能動分詞が未来を示すのは、この進行・継続の用法から拡大したものと考えればわかりやすく、rāyih の「行きつつあるがまだ目的地に到達していない」という状態について、「目的地に到達していない」という部分に重点を置けば、出発前つまり行くという動作を始める前の状態も、この rāyih という能動分詞によって表すことが可能となる。

先行研究で指摘されている、移動動詞以外で、能動分詞が未来 (計画されたことや規則的に繰り返される行為や出来事) を表すという用法 (例文19 kulli-l-maḥallāt 'afla ba 'di bukra 'aṣān il-'id. “明後日は祭日のため、全ての店が閉店する” Al-Tonsi et al 1986b, p.114) は、能動分詞の現在進行・継続的な意味合いに加え、移動動詞の未来を表す働きが広がって用いられたものであろうし、感嘆文などで、ある行為が繰り返され習慣的になっているさまを、能動分詞で表

現する（例文21 *miš ma'ul kida kulli yōm rāgi' nuṣṣ il-lēl!* “毎日こんなふうに深夜に帰ってくるなんて、むちゃくちゃだ” Al-Tonsi et al 1986b, p.115）も、能動分詞の持つ継続的な意味合いが拡大した用法と解釈されよう。

無標的未完了形にも未来を示す用法があったが、それは無標的未完了形の「現実世界で具体的な形で生じていない事柄を表す」という性質から派生したもので、既に述べたようにムード的な意味合いのあることが多く、移動動詞の能動分詞が、その結果を表す性質ゆえに持つ、確実な未来を示す用法とは性格が異なる。

逆に、移動動詞の能動分詞形であっても、次のように、既に完了している行為を示すことがある：

例文81) *bal w- aktar haḍāra min il- balad illi 'inta gāy min -ha.*
 しかし そして より多く 文明 ~から (限定辞) 国 関代 2単男・主格 来る 能分・男単 ~から 3単女・斜格
 いや、あなたがそこから来たところの国の文明よりも、むしろ（我々の国の文明は）最も進歩した文明なのだ。（Sālim, pp.39-40）

さらにこの *gāy*（来る 能分・男単）は、来たことが完了したばかりであるとか、来た結果として“あなた”がまだその国に滞在しているとかいう必要はなく、たとえ来たのが十年前であっても、“あなた”がよその国に出国してしまったあとであっても、変わりなく使える表現で、完了形の *gēt*（来る 2 男単・完了）と置き換えても、意味の違いは感じられない。

ただこの場合、“あなた”すなわちエディプスがこの国にやって来て、さまざまな発明品によってこの国の文明を一気に進歩させたという文脈があり、そうした因果関係が、能動分詞形の選ばれた背景にあるかもしれないと予想する余地はあると思う。

例えば、次の例：

例文82) *'ana gaybā -ku(m) 'ašān tifakkaru wi- txallaṣu*
 1 単・主格 連れて来る 能分・女単 2 複・斜格 ~ため 考える 2 複・未完 そして 終わらせる 2 複・未完
 -n- nās mi(n i)l- muṣība lli hiyya fī -ha, (以下略)
 (限定辞) 人々 ~から (限定辞) 災い 関代 3 単女・主格 ~の中に 3 単女・斜格

あなたたちが考え、人々がその中にいるところの災いから人々を解放するために、私はあなたたちを連れてきたのです。（Sālim, p.28）

ここでも、*gaybā-ku*（あなたたちを連れて来る）は、この前連れて来たばかりであるとか、連れて来た結果、その人たちがまだここに滞在しているとか、そうした含みはなく、やはり完了形の *gibt*（連れて来る 1 単・完了）と置き換えても意味合いは変わらない。ただ、能動分詞形の方が、連れて来た目的などがはっきりしている感じがするというので、やはり「連れて来た」ことで期待される結果を考慮に入れた表現であると思われる。

ただしいずれにせよ、これらの能動分詞は、完了形と置き換えても著しいニュアンスの変化は感じられず、結果を表す用法でありつつも、完了形の用法にかなり近づいたものだといえる。

3.2.2 で取り上げた例で：

例文45) *rāyih wi-bi-yfakkar fi-g-gayza..*

彼は褒美のことを考えながら行ったのだ。(Sālim, p.26)

この例では、もちろん、行った結果、怪物のなぞなぞに答えられずに殺されてしまったと言う結果の含みもあるかもしれないが、*rāyih* (行く 能分・男単)の前に *kān* (~である 3男単・完了)が省略されているというわけでもなく、このままで「行った」という、さっき終わってしまった過去の出来事を表す言い回しとなっている¹³⁾。

もう少し、結果に重点の置かれた用例としては：

例文83) *iṣ- ṣōt gāy min in- nahya di..*

(限定辞) 声 来る 能分・男単 ~から (限定辞) 側 これ 女単

声はこっちの方から来ているな。(Sālim, p.91; 例文59の一部と重複)

これは、声が聞こえてから多少時間が経過してから発せられた台詞であり、今、声はこちらに届きつつある状態ではない。しかし、単純に「こちらの方向から声が聞こえた」というだけでなく、声の方角に関する状況が維持されていて、声の主の居場所特定に役立つという状況である。

3.4.2 能動分詞形の婉曲性、そしてアクチュアル性の低さ

能動分詞の結果を表すという働きは、すなわち、何かの結果を受け手に察してもらうという表現方法である。例えば、*wākil* (食べる 能分・男単)は「食べた」と言っ、その結果である「おなか一杯だ」とか「今はまだ食べたくない」という状況を聞き手に察してもらうわけである。このような性格上、能動分詞の表す意味合いは、婉曲的だったり具体性にかけたりすることが予想される¹⁴⁾。

例えば、3.3.2の例文53)で用いられている無標の未完了形 *timṣi* (歩く、進む 3女単・未完)を、能動分詞形 *maṣya* (歩く、進む 能分・女単)に替えて：

例文84) *'inta bi ṣīfat -ak rayīs il- ḡurfa -t tigariyya yihimm*

2男単・主格 ~によって 性質 2男単・斜格 長 (限定辞) 室 (限定辞) 商業の 女単 関心を持たせる 3男単・未完

-ak 'inn it- tigāra maṣya.

2男単・斜格 ~こと (限定辞) 商業 歩く、進む 能分・女単

あなたは、商工会議所所長として、商業が進展することに関心があるのだ。

これを、**it-tigāra bi-timṣi*のように、*bi*-未完了形にしてしまうと、ゆっくり一歩ずつ歩いてい

13) 同様の例として、

A: *'alō, mumkin 'atkallim ma'a X?* (もしもし、Xさんはいらっしゃいますか?)

B: *huwāa msāfir.* (彼は旅行に出ました。)

における *msāfir* (旅に出る、能分・男単)は、インフォーマントによれば、「今、旅行している」ではなく「旅に出てしまった」すなわち完了形の意味に近い。

14) フェズ (モロッコ) 方言における能動分詞の同様の効果については、榮谷 (1998) でも述べた。

るようなイメージとなってしまうなど、奇妙な表現になることは既に述べたとおりである。しかし、上のように能動分詞で置換えた場合には全く自然な文となる。

また、次の例でも：

例文85) *il- 'ahāli -n-naharda kānit bi- tirka' l -i wi*
 (限定辞) 人々 今日 ~である 3女単・完了 お辞儀する 3女単・未完 ~に 1単・斜格 そして
-l- markib il- fir'ōni māši.. il- 'ahāli -n-naharda sagadū
 (限定辞) 船 (限定辞) ファラオの 男単 歩く、進む 能分・男単 (限定辞) 人々 今日 平伏す 3複・完了
l -i w- ana b- ašalli..
 ~に 1単・斜格 そして 1単・主格 祈る 1単・未完

人々は今日、ファラオの船（注：エディプスが乗っていた船）が走っていると、私（注：エディプス）にお辞儀をしていた。人々は今日、私が祈っていると、私に平伏した。（Salim, p.75）

この *māši* を、**bi-yimši* のように、*bi-*未完了形にしてしまうと、動物が歩いているようなニュアンスとなって、船が進む様を表すには不適切となる。能動分詞にも、無標的未完了形に見られたような、やや抽象的な意味合いを表す性質があるといえる。

その一方で、この文末の *b-ašalli*（私が祈っている）、そのとき祈っていたという具体的な行為を表す *bi-*未完了形（3.3.2で述べた、*bi-*未完了形が、別の出来事と現実に同時進行していた行為を表す用法である）を、能動分詞形 *mišalli*（祈る 能分・男単）と取り替えることはできない。*mišalli* というと、イマーム（祈りの導師）などのような、いつも祈っている人を意味することになる。つまり、ある特定の時に実際に祈るという具体的な行為の表現ではなくなって、時間的な特定が緩んで反復的・習慣的な事柄を表すのである。

別の例を見てみよう：

例文86) *kull il- li'ab fi -s- sū' kida..*
 全て (限定辞) おもちゃ 複 ~に (限定辞) 市場 このような
 市場にあるおもちゃは、全部こんなよ。

wahš rākib biskilitta wi- 'Udib bi- ymawwit -u..
 怪物 乗る 能分・男単 自転車 そして エディプス 殺す 3男単・未完 3男単・斜格
 自転車に乗っている怪物、そしてエディプスがそれを殺しているところ。

wahš rākib tayyāra wi- 'Udib bi- ymawwit -u..
 怪物 乗る 能分・男単 飛行機 そして エディプス 殺す 3男単・未完 3男単・斜格
 飛行機に乗っている怪物、そしてエディプスがそれを殺しているところ。

wahš bi- yil'ab kōra wi- 'Udib bi- ymawwit -u..
 怪物 遊ぶ 3男単・未完 球 そして エディプス 殺す 3男単・未完 3男単・斜格
 サッカーをしている怪物、そしてエディプスがそれを殺しているところ。（Salim, p.62）

怪物退治をするエディプスをかたどったおもちゃの描写で、怪物は何かに乗りっぱなし（あ

るいはサッカーをしっぱなし)で、それをエディプスが殺しつつあるという場面である。

bi-yirkab (*bi-*乗る 3男単・未完)は、通常、「習慣的に乗っている、いつも乗っている(例えば、通勤のために毎朝バスに"乗る", などの場合)」という意味になるが、上の例で *rākib* (乗る 能分・男単)を *bi-yirkab* (*bi-*乗る 3男単・未完)に取り替えると、習慣を表すのではなく、「今、乗りこみつつある、よっこいしょと乗ろうとしている」という意味に変化してしまう:

例文87) *wahš bi- yirkab biskilitta wi- 'Udīb bi- ymawwit -u..*
 怪物 乗る 3男単・未完 自転車 そして エディプス 殺す 3男単・未完 3男単・斜格
 自転車に乗りつつある怪物、そしてエディプスがそれを殺しているところ。

wahš bi- yirkab tayyāra wi- 'Udīb bi- ymawwit -u..
 怪物 乗る 3男単・未完 飛行機 そして エディプス 殺す 3男単・未完 3男単・斜格
 飛行機に乗りつつある怪物、そしてエディプスがそれを殺しているところ。

bi-ymawwit (殺しつつある)に引かれ、それに連動して、時間的に特定の具体的な「乗りつつある」という解釈となったのであろう。

逆に *bi-ymawwit* (殺しつつある)を能動分詞形にして、*mimawwit* (殺す 能分・男単)に変えてしまうと、これは今、実際に殺しつつあるという意味ではなく、殺し屋や殺人犯のような意味合いを持ってくるので、この文脈では使うことができない。付け加えれば、上記の例文の最後の部分で、*bi-yil'ab kōra* (サッカーをしている)を能動分詞形に変えて *lā'ib kōra* というと、やはり「サッカー選手」の意味になってしまう。

このように、同じ文脈に *bi-*未完了形と能動分詞形とを置いた場合、能動分詞形の方が1) 抽象的な意味合いになる、あるいは2) 時間の特定が緩んでアクチュアル性が下がる。逆にいえば、*bi-*未完了形の方が、より具体的な意味を持つ。

しかしながら、何かの結果を表すという能動分詞形の性格上、無標的未完了形のように、完全に非アクチュアル的な用いられ方(例えば、不定詞的用法など)はないし、能動分詞形と無標的未完了形を比較してみると、やはり能動分詞形の方が、特定の時間に結びつきやすい傾向がうかがわれる。例えば、怪物の前で頭を抱える大学教授を遠くから眺めながらのエディプスの台詞:

例文88) *ma yi'raf -š yifakkar 'illa 'iza misik*
 (否定辞) 知る, できる 3男単・未完 (否定辞) 考える 3男単・未完 ~以外 もし 掴む, 抱える 3男単・完了
dimār -u.. ?
 頭 3男単・斜格
 彼は、頭を抱えなければ、考えられないのか? (Sālim, p.24)

これは、彼の性質として、頭を抱えないと考えることができないのか?という一般的な話であり、怪物を目の前にした今に限定しての話ではない。

次の2例を比較すると:

例文89) *Haruku ma ti'raf -š timši f midān Ramsīs.*
 ハルコ (否定辞) 知る, できる 3女単・未完 (否定辞) 歩く 3女単・未完 ~で 広場 ラムセス
 ハルコはラムセス広場を歩くことができない。(ラムセス広場を良く知らない)

例文90) *Haruku miš 'arfa timši f midān Ramsīs.*
 ハルコ (否定辞) 知る, できる 能分・女単 歩く 3女単・未完 ~で 広場 ラムセス
 ハルコはラムセス広場を歩くことができない。(今, ラムセス広場で迷子になっている)

のように, 下の能動分詞形の例の方が, 今現在という特定のな時間に起きた出来事を述べる言い回しになっている。また, 次の例で:

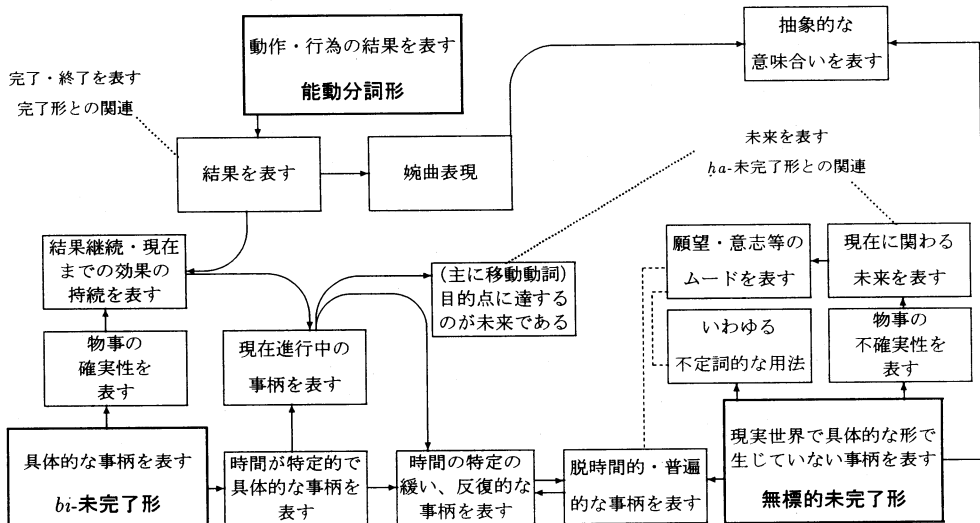
例文91) *Haruku ti'raf midān Ramsīs.*
 ハルコ 知る 3女単・未完 広場 ラムセス
 ハルコはラムセス広場を知っている。

例文92) *Haruku 'arfa midān Ramsīs.*
 ハルコ 知る 能分・女単 広場 ラムセス
 ハルコはラムセス広場を知っている。

例文91) のように, 無標的未完了形を用いると, ラムセス広場がどこにあるかを知っている程度の感じだが, 例文92) のように能動分詞を使った場合には, 広場の隅々まで良く知っているという意味合いになり, 無標的未完了形より知っている度合いが高くなる。

このように, 能動分詞形は, 具体的な実現のないことを表す無標的未完了形よりも, 具体的・確信的な意味合いを持っている一方で, 結果を表すという性質上, その結果を察してもらうという婉曲な言い方になったり, 現在の状態を言い表すにも, 何かの結果が継続しているという捉え方をしているため, *bi*-未完了形よりアクチュアル性の低い言い回しになったりする。

以上の分析を踏まえて, 最後に動詞の各形式の相互関係を図に表すと, 次のようになる:



※意味の派生する方向を矢印で表した。

4 おわりに

本稿においては、*Kumidiya 'Udib: w-inta (i)lli 'atalt il-wahš*『喜劇エディプス：あなたが怪物を退治した人だ』の用例を検討しながら、アラビア語エジプト方言の、*bi*-未完了形や能動分詞形の用法との比較を通して、主に無標的未完了形に焦点を当ててその機能や文脈における効果を明らかにした。

まず、具体的な事柄を示す *bi*-未完了形と対照的に、無標的未完了形は、現実世界で具体的な形で生じていないことを示すのが特色である。そこから次のような用法が派生する：

- (1) 時間を超越した普遍的な事柄を示す用法。
- (2) 抽象的な意味合いを表す用法。
- (3) いわゆる不定詞的な用法。
- (4) 不確実性を表す用法。これは現在に関わる未来を表す用法やムード的用法に繋がる。

また、何かの結果を表す能動分詞形と比較すると、能動分詞形は、結果を察してもらうという形の婉曲表現や抽象的な表現、あるいは現在の状態を言い表すにも、何かの結果が継続しているという言い方になるので、*bi*-未完了形よりアクチュアル性が下がりがちである。この点で、具体性のない、無標的未完了形に近い性質を持つ。しかし、何かの結果として何らかの形で実現したことを述べるのが能動分詞形の働きであるから、無標的未完了形のような、完全な非アクチュアル性を表現することはない。

ただし、次のような問題点が残っている。まず、本稿においては条件文における動詞の各形式の用法等の問題には言及できなかった。3.2.1 でも述べたように、*law* や *iza* で導かれる条件節内では、完了形が用いられ、未完了形の使われている例がなかったが、今回は完全に考察の対象外としてしまった。

さらに、本論では、無標的未完了形と *bi*-未完了形・能動分詞形との関係を論じたが、同時に完了形と *ha*-未完了形とそれらとの関係を提示するにあたり、完了形と *ha*-未完了形の十分な吟味を行っていない。この点も、今後補強されるべきである。

また、*kān* “to be”, *ba'a* “to become” という動詞の用法に関しても、本稿では触れていない。強いて言えば、3.2.1の例文38)で、通常使われないはずの現在時制における *kān* “to be” について多少触れた程度で、*ba'a* “to become” についてはまったく言及しないままであった。特に *kān* は、他の動詞形式と結びついて複合時制を形成する働きを持つ。これらの動詞の用法についても、インフォーマント調査等を行ない、その特性を明らかにしたい。

Appendix

本稿で用いた転写記号 (IPA 以外の記号を用いたもの)：

ʔ [ʔ]	; j [ʒ]	; h [ħ]	; x [χ]
ɾ [ɾ]	; š [ʃ]	; s [s]	; d [d]
t [t]	; z [z]	; ʕ [ʕ]	; y [j]

本稿で用いた略号：

1 = 1人称	2 = 2人称	3 = 3人称		
男 = 男性	女 = 女性	単 = 単数	複 = 複数	
完了 = 完了形	未完 = 未完了形	能分 = 能動分詞	受分 = 受動分詞	
関代 = 関係代名詞				

※本稿執筆にあたり、筆者の退屈な質問に忍耐強く付き合ってくださいました Māgid Anwar さん、Muḥammad Xayri さん、また多くの有益な助言をくださった『アジア・アフリカ言語文化研究』の査読委員の先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ただし、本文中の誤謬その他全ての責は筆者にある。なお、本稿の一部は、「アラビア語エジプト方言の bi-を伴う未完了形と無標的未完了形」として、日本言語学会第123回研究大会（2001年11月18日、九州大学）で発表した。

参 考 文 献

- Ahmed, M. 1981. *Lehrbuch des Ägyptisch-Arabischen*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- Brustad, K. 2000. *The syntax of spoken Arabic: a comparative study of Moroccan, Egyptian, Syrian, and Kuwaiti dialects*, Georgetown University Press, Washington, D.C.
- Eisele, J.C. 1990. Time reference, tense, and formal aspect in Cairene Arabic. In Eid, M. (ed.) *Perspectives on Arabic Linguistics I. (Current Issues in Linguistic Theory, 63)*. pp.173-212. John Benjamins Publishing Company, Amsterdam/Philadelphia.
- . 1999. *Arabic Verbs in Time: Tense and Aspect in Cairene Arabic*, Harrassowitz, Wiesbaden.
- 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一 (編著) 1996. 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂, 東京。
- 工藤真由美 1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト：現代日本語の時間の表現』ひつじ書房, 東京。
- 榮谷温子 1998. 「アラビア語フェズ方言における *bʾra* (～したい) と *xəṣṣ* (～しなければならない)」『アジア・アフリカ言語文化研究』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 55号, pp.255-278.
- Salib, M.B. 1981. *Spoken Arabic of Cairo*. The American University in Cairo Press, Cairo.
- Sālim, 'A. 1986. *Kumidiya 'Udib: W-inta (I)lli 'Atalt il-Wahš*, Maktabat Madbūli, Cairo. (初演は1970年)
- Al-Tonsi, A., Al-Sawi, L. and Massoud, S. 1986a. *An Intensive Course in Egyptian Colloquial Arabic: Part I*, American University in Cairo, Cairo.
- . 1986b. *An Intensive Course in Egyptian Colloquial Arabic: Part II*, American University in Cairo, Cairo.
- El-Tonsi, A. 1982. *Egyptian Colloquial Arabic: A Structure Review 2*, American University in Cairo (Arabic Language Institute), Cairo. (筆者が参照したのは1992年の第5版)
- Wild, S. 1964. Die resultative Funktion des aktiven Partizeps in den syrisch-palästinischen dialekten des Arabischen. *Zeitschrift der Deutschen Morgenlandischen*, 114, pp.239-254.
- Woidich, M. 1975. Zur Funktion des aktiven Partizeps im Kairenischen- Arabischen. *Zeitschrift der Deutschen Morgenlandischen*, 125, pp.273-293.